

IV 教育及び研究

1 学部・大学院の概要(3つの方針)

【学 部】

○文化学部

ディプロマ・ポリシー

人文・社会系諸科学の知識を身につけ、多様な社会や文化を理解し、豊かな共生社会の実現、新たな文化の創造及び自律した自己の成長を追求することを目指し、以下の各項目における能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 幅広い教養と人文・社会系諸科学の基本的な知識を身につけ、多様な文化に関して多角的な視点から理解することができる。
2. 言語文化系と地域文化創造系を中心とする人文・社会系諸科学の専門的知識を体系的に理解し、その知識体系を自らの問題意識の中に位置づけることができる。

(汎用的・実践的技能)

3. 社会や文化に関する深い洞察に基づいて、日本語や外国語による高度な文章表現能力・他者との円滑なコミュニケーション能力・グローバルな情報発信能力を身につけている。
4. 必要な情報を幅広く収集し、的確に整理・分析することを通じて、その問題を解決できる能力を身につけている。

(態度・志向性)

5. 豊かな共生社会の実現に向けて、能動的かつ自律的に地域社会・国際社会の諸問題の解決に取り組むことができる。
6. 社会や文化に深い関心を持ち、生涯にわたって学び、考えていく意欲を持っている。

(総合的な学習経験と創造的思考力)

7. これまでに体得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自由な発想のもとで新たな文化を創造することに貢献するとともに、自律した個人としての自己の成長を追求することができる。

カリキュラム・ポリシー

文化学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

1. 共通教養教育科目

- (1) 共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル(リテラシー科目)、諸科学の基本的な知識(教養基礎科目)、地域社会や国際社会の課題(課題別教養科目)、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能(健康スポーツ科目)、地域課題への実践的取り組み(域学共生科目)を学ぶ科目群を設置する。
- (2) 英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。

- (3) 可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。

2. 専門教育科目

専門教育科目には、学部共通科目と学部専門科目を置く。

(カリキュラムの構造・教育内容)

- (1) 学部での学びの基礎的能力及びコミュニケーション能力を身につけるためのリテラシー科目、学部教育の基礎となる知識を身につけるためのエッセンシャル科目、就業力を高めるためのキャリア形成科目から成る学部共通科目を設置する。
- (2) 人文・社会系諸科学の専門的知識を幅広くかつ体系的に体得するために、言語文化系(英語学領域、国際文化領域、日本語学領域、日本文学領域)、地域文化創造系(地域文化領域、地域づくり領域、観光文化領域、観光まちづくり領域、現代法文化領域、生活法文化領域)、文化総合系(言語文化系及び地域文化創造系の教育内容を総合的に学ぶ)の3つの系から成る学部専門科目を設置する。
- (3) 専門的な知識・理解をより深め、専門的な研究手法を学ぶために各領域に専門演習を設置し、また、学部教育で体得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、必要な情報の収集とその的確な整理・分析を通じて、能動的かつ自律的に現代社会の諸問題を発見し、これを解決する能力を養うために課題研究ゼミナールを設置する。
- (4) この他、中学校・高等学校(国語、英語)の教職課程を設置する。

(履修方法・順序)

学部共通科目は、主に1、2年次に履修する。学部専門科目は、主に2～4年次に履修する。各領域の専門演習及び課題研究ゼミナールは、3、4年次に履修する。

(教育方法)

学部共通科目及び学部専門科目では、学生が能動的に学習するよう多様な教育方法を取り入れる。学部共通科目の基礎演習、各領域の専門演習及び課題研究ゼミナールは、少人数による演習形式で行い、課題研究ゼミナールでは学部教育の集大成として卒業研究を仕上げる。

(評価)

学部のディプロマ・ポリシーに基づいて各授業科目の達成目標を定め、達成目標及び成績評価の基準・方法を学生に周知し、それに基づいて成績評価を行う。さらに学生による教育に関する評価結果も踏まえて、カリキュラムの評価・改善を図り、教育の質の保証に努める。

アドミッション・ポリシー

文化学部は、人文・社会系諸科学による多角的な文化研究により人間・社会に対する理解を深め、文化の批判的継承を通して豊かな人間性と主体的に行動し得る能力を培い、地域文化の創造と向上に資するとともに、真に豊かな共生社会の実現に向けて国際的に貢献できる市民を養成します。

したがって、文化学部では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 人文・社会系諸科学を理解する上で必要な基礎的素養、すなわち高等学校等で履修する主要な教科に関する十分な基礎学力を有している人〔知識・理解〕
2. 高等学校等で履修した幅広い基礎的素養を基に、物事を論理的に思考・判断し、これを言語によって適切に表現する能力を備えている人〔思考力・判断力・表現力〕
3. 人間・社会に広く関心を持ち、言語、地域、観光、法学などの視点から人文・社会系諸科学の専門的知識を身につけたいと考えている人〔関心・意欲・主体性・協働性〕
4. 人間に対する理解を深め、実践的なコミュニケーション能力を体得し、現代社会の諸課題を主体的に発見・分析・解決するために必要な学習に意欲のある人〔関心・意欲・主体性・協働性〕
5. 将来、地域社会・国際社会の幅広い分野で豊かな共生社会の実現に向けて活動したいと考えている人〔関心・意欲・主体性・協働性〕

入学者選抜の基本方針

■文化学部[言語文化系／地域文化創造系]が行う入学者の選抜方法には、一般選抜(前期日程・後期日程)、学校推薦型選抜(県内・全国)、社会人選抜、私費外国人留学生選抜、3年次編入学選抜があります。

・一般選抜(前期日程)

大学入学共通テストと小論文を課します。大学入学共通テストでは、基礎学力を把握するため、国語、外国語及び受験者が自由に選択できる1教科の計3教科3科目(又は4科目)を課します。小論文では、高等学校等での基礎学力を前提に、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力、併せて英語の読解力、表現力を総合的に評価します。

・一般選抜(後期日程)

大学入学共通テストと面接を課します。大学入学共通テストでは、基礎学力を把握するため、国語、英語及び受験者が自由に選択できる1教科の計3教科3科目(又は4科目)を課します。面接では、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。面接者は調査書も参考にして質問します。

・学校推薦型選抜(県内・全国)

学校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、小論文と面接を課します。小論文では、高等学校等での基礎学力を前提に、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、課題に対する基礎的知識を総合的に評価します。面接では、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。面接者は調査書・推薦書も参考にして質問します。

・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、小論文と面接を課します。小論文では、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力、併せて英語の読解力を総合的に評価します。面接では、志望動機書の内容も参考にして、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。

・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、日本留学試験と面接を課します。日本留学試験では、文化学部で学ぶ上で必要な基礎的能力を評価します。面接では、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。面接者は、志望動機書も参考にして質問します。

・3年次編入学選抜

小論文と面接を課します。小論文では、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力、併せて英語の読解力を総合的に評価します。面接では、志望動機書の内容、TOEIC の結果も参考にして、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。

■文化学部[文化総合系(夜間主コース)]が行う入学者の選抜方法には、学校推薦型選抜(県内)、社会人選抜、3年次編入学選抜があります。

・学校推薦型選抜(県内)

学校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、面接を課します。口頭試問を含む面接では、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。面接者は、調査書・推薦書・志望動機書も参考にして質問します。

・社会人選抜(A日程・B日程)

社会人経験を有する者又は就業しながら勉学する意思がある者を対象として、小論文と面接を課します。小論文では、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力を総合的に評価します。面接では、志望動機書の内容も参考にして、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。

・3年次編入学選抜

小論文と面接を課します。小論文では、文化学部で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力、そして日本及び世界の文化についての知識・理解力を総合的に評価します。面接では、志望動機書の内容も参考にして、文化学部における勉学・研究への熱意・意欲、文化学部で学ぶ上で必要な言語表現力、論理的思考力、判断力、基本的な知識や理解力等を総合的に評価します。

○看護学部

ディプロマ・ポリシー

看護学部は、豊かな人間性と社会の課題に取り組む態度を身につけ、看護の理念や専門的知識・技術、ヒューマニズムを礎として、将来に向かって拓かれた看護を構築し、健康問題を人々と共に解決し、人々の健康生活の創造に貢献ができる豊かな人間性・創造性を獲得することを目指し、以下の能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 専門的知識に基づいて、看護の対象を人間、健康・環境・生活の視点から包括的に理解することができる能力を有している。

(汎用的・実践的技能)

2. 個人・家族・地域社会のダイナミズムのなかで、健康課題の解決に向けて看護を実践することができる能力を有している。
3. 保健・医療・福祉などのあらゆる場で、リーダーシップを発揮して多職種と協働することができる基礎的能力を有している。

(態度・志向性)

4. 人間の多様な生き方や価値観を理解し、尊厳と権利を擁護して看護の対象となる人々と関係性を築くことができる能力を有している。

(総合的な学習経験と創造的思考力)

5. 看護専門職者として生涯にわたって研究的視点をもって看護の本質を探究し、専門性を高めることができる基礎的能力を有している。
6. 国際的・学際的見地に立って人々の健康と安全・安心な暮らしを支える看護を創造することができる基礎的能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

看護学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

1. 共通教養教育科目

- (1) 共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル(リテラシー科目)、諸科学の基本的な知識(教養基礎科目)、地域社会や国際社会の課題(課題別教養科目)、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能(健康スポーツ科目)、地域課題への実践的取り組み(域学共生科目)を学ぶ科目群を設置する。
- (2) 英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。
- (3) 可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。
- (4) 共通教養教育科目により、看護の対象である人間を総合的に理解し、グローバルにものごとや社会を捉える能力、豊かな人間性と感受性を培う。

2. 専門教育科目

専門教育科目は、看護を展開する上で必要となる専門的知識、技術、科学的思考、問題解決能力、国際性・学際性を修得するために、「専門基礎科目」「看護基礎科目」「看護臨床科目」「総合科目」を置く。

(カリキュラムの構造・教育内容)

- (1) 専門基礎科目は、人間の健康と疾病の成り立ちや治療に関する専門的知識や、個人・家族・地域の連続性の中で人々の健康を理解するための知識の修得を目指した科目を置く。

- (2) 看護基礎科目は、看護学 concepts や基礎的な知識を学び、看護の対象理解、看護者としてのものの見方や考え方、看護技術の修得を目指した科目を置く。
- (3) 看護臨床科目は、共通教養教育科目、専門基礎科目、看護基礎科目での学びを基盤とする人間の総合的な理解をふまえ、人々の多様な生き方や価値観を理解し、尊厳と権利を尊重しながら、科学的思考、問題解決能力を用いて健康問題を解決し、健康的な生活の向上をはかるための看護を展開する能力を養うことを目指した科目を置く。
- (4) 総合科目は、看護専門職者としてのアイデンティティを培うとともに、地域の健康課題を予測し、主体的、積極的に学ぶ姿勢を持ち、国際的・学際的見地に立って、研究的な視点で看護の本質を探究していく基礎的能力を養うための科目を置く。

(履修方法・順序)

- (1) 入学後早期より、看護学への関心を高め、専門的知識と技術を修得するための看護基礎科目と、看護の対象である人間を理解する基礎となる知識を修得するための専門基礎科目を平行して学びながら、学年進行に従って基礎から応用へと専門性を深めることができる構成とする。
- (2) 看護基礎科目、専門基礎科目を基盤として、人間の発達段階や健康レベル、個と集団など多様な対象への看護を展開する能力を修得するために、看護臨床科目では各専門領域の看護に関する知識と技術を学び、臨地実習科目で応用、統合できる構成とする。
- (3) 学内で学んだ知識、技術を体系的に実践に活かすことができるように、臨地実習科目の履修にあたっては、履修要件を設ける。
- (4) 看護専門職者として主体的に学ぶ姿勢と倫理観を養うことができるように、4年間を通して、総合科目を配置する。また、4年次には、看護基礎科目、専門基礎科目、看護臨床科目での学修を通して学んだ知識と技術を統合し、より深い専門性と看護の本質を探究する能力を修得できるように、総合看護実習や看護研究などの総合科目を配置する。

(教育方法)

- (1) 本学部のディプロマ・ポリシーに沿う能力を、学生が将来を見据えて修得できるように、『看護学部のカリキュラム構成図』『看護学部履修モデル』を提示し、履修指導を行う。
- (2) 本学部のディプロマ・ポリシーに沿う能力を学生が修得できるように、多彩な教育方法を用いる。事前課題、事後課題、グループワーク、グループ討議、アクティブラーニング等により、学生が主体的に学ぶ方法を取り入れる。さらに、学生が知識を活用して分析し判断する力、知識と技術を統合し適切な看護ケアを考え実践する能力を高めるために、シミュレーション教育、少人数教育を行う。科学的論理的思考、新たな看護の知を創造する力を養うために、グループで看護研究を行う。また、学生が主体的に自己学習できるように、教育環境を整える。

(評価)

各講義科目・演習科目・実習科目では、本学部のディプロマ・ポリシーに沿った達成目標及び成績評価の方法・基準を、授業概要・実習要項により周知し、評価を行う。卒業時には、ディプロマ・ポリシーに基づいて評価を行う。さらに学生によるカリキュラム評価を行い、その結果に基づいて、カリキュラムの評価・改善を図り、教育の質の保証を行う。

アドミッション・ポリシー

看護学部は、豊かな人間性と社会の課題に取り組む態度を身につけ、看護の理念や専門的知識・技術、ヒュ

ーマニズムを礎として、将来に向かって拓かれた看護を構築し、健康問題を人々と共に解決し、人々の健康生活の創造に貢献ができる豊かな人間性・創造性を持った人材を養成します。

したがって、看護学部では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 幅広い文系・理系の基礎的学力をもつ人〔知識・教養〕
2. 人間、生活、社会を深く理解する力をもつ人〔思考力・判断力〕
3. ものごとを論理的に考える力をもつ人〔思考力・判断力〕
4. 生涯にわたって学び続ける力をもつ人〔関心・意欲〕
5. 自分で課題を発見し、計画を立て積極的に取り組む力をもつ人〔主体性〕
6. 他者を尊重し、協働してものごとに取り組む力をもつ人〔実行力・協働性〕

入学者選抜の基本方針

看護学部が行う入学者の選抜方法には、一般選抜(前期日程・後期日程)、学校推薦型選抜(県内・全国)、社会人選抜、私費外国人留学生選抜があります。

・一般選抜(前期日程)

大学入学共通テストにより看護学を学ぶ上で必要な基礎的学力を、個別学力検査(小論文、面接)により人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

・一般選抜(後期日程)

大学入学共通テストにより看護学を学ぶ上で必要な基礎的学力を、個別学力検査(面接)により人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

・学校推薦型選抜(県内・全国)

学校長が推薦する者を対象として、小論文と面接により人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性を総合的に評価します。面接者は、調査書・推薦書も参考にして質問します。

・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、小論文と面接により看護を学ぶ上で必要な基礎的学力と、人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性と、社会的経験を通して培った能力を総合的に評価します。面接者は、志望動機書も参考にして質問します。

・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、日本留学試験により日本の大学で看護学を学ぶ上で必要な日本語能力と基礎的学力を、小論文と面接により人間や生活・社会、健康や看護などへの関心や思考力、判断力、看護を学ぶことに関する意欲、主体性、実行力、協働性と日本語による口頭でのコミュニケーション能力を総合的に評価します。

○社会福祉学部

ディプロマ・ポリシー

共生社会を志向する市民としての素養を基礎に、社会福祉専門職として必要な価値・知識・技術を獲得することを目指し、以下の各項目における能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 現代社会で暮らす人々のニーズに対応する幅広い教養を基盤として、社会福祉の専門的知識を体系的に理解することができる。
2. 人々の生活を人間と環境の両側面から理解し、個々におかれている状況から普遍的な福祉課題までに対応する実践的な知識を身につけている。

(汎用的・実践的技能)

3. 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、人々の生活の安寧と質の向上に貢献することができる。
4. コミュニケーションスキルを用いて、福祉課題の解決に必要な情報を収集・分析し、複眼的・論理的に検討し、課題解決の方策を提案することができる。

(態度・志向性)

5. 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、人々の生活の安寧と質の向上に貢献することができる。
6. ノーマライゼーションを基本的視点として、人権や社会正義の観点から福祉課題に主体的に対応する志向性を身につけている。

(総合的な学習経験と創造的思考力)

7. 個人の尊厳と福祉理念を重視し、権利擁護に向けた支援を創造的・科学的に展開することができる。
8. 総合的な視野を持って、保健・医療・福祉の専門職と連携しながら社会福祉を実践することを通して、専門職としての自己の成長を追求することができる。

カリキュラム・ポリシー

社会福祉学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

1. 共通教養教育科目

- (1) 共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル(リテラシー科目)、諸科学の基本的な知識(教養基礎科目)、地域社会や国際社会の課題(課題別教養科目)、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能(健康スポーツ科目)、地域課題への実践的取り組み(域学共生科目)を学ぶ科目群を設置する。
- (2) 英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。
- (3) 可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。

2. 専門教育科目

(カリキュラムの構造・教育内容)

専門教育科目については、相談援助を基礎として、介護福祉や精神保健福祉分野にも関連する人権や社会正義の価値に裏打ちされた社会福祉学の専門的及び実践的な知識・技術を修得するために11科目群を設定している。科目群を構成する科目については、基礎から応用・発展段階へと連続的に配置している。

基礎段階では、11科目群のうち、「基本科目」・「社会福祉制度科目」・「からだところの理解科目」を置いている。基礎及び応用段階に属する科目群として、「ソーシャルワーク基礎科目」・「介護福祉理解科目」を置いている。加えて応用段階では、科目群として、「地域・国際福祉科目」・「社会復帰支援科目」を置いている。応用及び発展段階に属する科目群として、「ソーシャルワーク実践科目」・「介護福祉実践科目」・「精神保健福祉実践科目」・「総合科目」を置いている。

(履修方法・順序)

基礎段階の科目は、主に1～2年次に履修する。応用段階の科目は、主に2～3年次に履修する。発展段階の科目は、主に3～4年次に履修する。また、社会福祉領域における相談援助に必要な知識と技術を担保する前提となる資格として、社会福祉士国家試験受験資格を位置づけており、加えて、希望により介護福祉士国家試験受験資格又は精神保健福祉士国家試験受験資格も取得することができる。

(教育方法)

各科目については、事前・事後課題、グループ討議、リアクションペーパーなどを取り入れ、アクティブラーニングを重視した教育方法により展開する。特に応用段階及び発展段階の各科目では、基礎段階で学んだ知識・技術を定着・深化させ、専門職としての社会福祉実践に求められる総合的な知識・技術や社会福祉学を探究する力を身につけるために、少人数での演習・実習形式を積極的に取り入れる。

(評価)

学部のディプロマ・ポリシーに基づいて各授業科目の具体的な到達目標を定め、成績評価の基準・方法と共に学生に周知している。各段階及び各科目の特性に応じた多面的な評価方法を取り入れ、社会福祉専門職にふさわしい資質能力を獲得できたかについて、科目ごとに定める評価項目と基準に沿った成績評価を行う。さらに学生による教育に関する評価結果に基づいて、カリキュラムの改善を図り、教育の質の保証を行う。

アドミッション・ポリシー

社会福祉学部は、福祉の現代的課題に対応する、深い人間理解や人権尊重の精神に裏打ちされた専門的知識と実践的知識と実践的技能を教授研究することにより、共感する心と豊かな人間性をもって、社会生活で生じるさまざまな問題に主体的に対応できる福祉的実践能力を修得させ、社会の幅広い分野で福祉の向上に寄与できる有為な人材を養成します。

したがって、社会福祉学部では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 高等学校等で学ぶ基本的な科目の学力を有する人〔知識・教養〕
2. 人に対して関心を持ち、協調性を大切にして柔軟に行動できる人〔思考力・判断力・表現力〕
3. 自ら行動することによって、課題の発見や分析を行うことができる人〔思考力・判断力・表現力〕
4. 地域や家族の福祉課題に関心を持ち、その解決方法を学びたい人〔熱意・意欲〕
5. 他者と協働して、人々の生活を支え、よりよい地域社会を創造したい人〔熱意・意欲、主体性・協働性〕

入学者選抜の基本方針

社会福祉学部が行う入学者の選抜方法には、一般選抜(前期日程・後期日程)、学校推薦型選抜(県内・全国)、社会人選抜、私費外国人留学生選抜があります。

・一般選抜(前期日程)

基礎学力の把握のため、学部が指定する大学入学共通テスト教科・科目を課すとともに、個別学力検査等では面接を行います。面接は、課題図書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

・一般選抜(後期日程)

基礎学力の把握のため、学部が指定する大学入学共通テスト教科・科目を課すとともに、個別学力検査等では面接を行います。面接は、自己PR書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

・学校推薦型選抜(県内・全国)

学校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、当日指定するテーマに関するレポート及び集団討論、面接を行います。レポートでは、知識、思考力、表現力等を評価します。集団討論では、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度等を評価します。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書・志望動機書・推薦書も参考にして質問します。

・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、小論文と面接を課します。小論文では、社会福祉学部で学ぶ上で必要な理解力、論理的思考力、文章表現力及び英文読解力等、高等学校等での学習を前提にした基礎的な学力を総合的に評価します。面接は、志望動機書及び履歴書を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。

・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、日本留学試験の日本語と総合科目を課すとともに、面接を行います。面接は、志望動機書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲や日本語によるコミュニケーション能力を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。

○健康栄養学部

ディプロマ・ポリシー

豊かな教養と社会の諸問題に取り組む態度を身につけ、人間や健康の本質を理解しながら、生命の源である「食」を探究し、人々が健康に生活できるよう貢献できることを目指し、以下の各項目における能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 広範な学問領域における教養を身につけることで、グローバル化する現代社会の諸問題や地域社会の特性を理解することができる。
2. 健康の保持増進、傷病の予防・回復のために必要な栄養学的知識と技術、指導方法を修得している。

(汎用的・実践的技能)

3. 地域を取りまく諸問題の解決に必要な情報を収集・分析・整理して、提案することができる。
4. 管理栄養士に必要とされる知識、技能、態度及び考え方の総合的能力を身につけている。

(態度・志向性)

5. 栄養や食生活の専門家として、知識や技術を高めるよう生涯にわたって努力することができる。

(総合的な学習経験と創造的思考力)

6. 公衆衛生を理解し、保健・医療・福祉・介護システムの中で、栄養・給食関連サービスのマネジメントを行うことができる。
7. 健康の保持増進、疾病の一次、二次、三次予防のための栄養教育、食生活指導を行うことができる。

カリキュラム・ポリシー

健康栄養学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

1. 共通教養教育科目

- (1) 共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル（リテラシー科目）、諸科学の基本的な知識（教養基礎科目）、地域社会や国際社会の課題（課題別教養科目）、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能（健康スポーツ科目）、地域課題への実践的取り組み（域学共生科目）を学ぶ科目群を設置する。
- (2) 英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。
- (3) 可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。

2. 専門教育科目

国際性及び社会性を持った管理栄養士を養成するために、「基礎科目」「専門基礎分野」「専門分野」の3科目群を置く。それぞれの科目群を構成する科目については、基礎から応用・発展段階へと連続的に配置する。

(カリキュラムの構造・教育内容)

- (1) 基礎科目の科目については、他の専門教育科目を履修する上で必要な予備知識や基礎学力を向上させるための補完科目として設置する。
- (2) 専門基礎分野の科目については、専門分野における知識や技術を修得するための基盤を身につけるために設置する。専門基礎分野を3つの科目群に分け、それぞれ「社会・環境と健康」「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」「食べ物と健康」を教育内容として位置づける。「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」と「食べ物と健康」の科目群によって、人間や生活についての理解を深めさせ、「社会・環境と健康」の科目群によって、社会や環境、健康と食生活について理解させる。

- (3) 専門基礎分野の中に、それぞれの教育内容の理解を深めるとともに必要な技能を修得することを目的として、「実験・実習」科目を設置する。
- (4) 専門分野の科目については、様々な領域において管理栄養士や栄養教諭としての専門性を高めるために設置する。専門分野を主に6つの科目群に分け、それぞれ「基礎栄養学」「応用栄養学」「栄養教育論」「臨床栄養学」「公衆栄養学」「給食経営管理論」を教育内容として位置づけるとともに、専門分野を横断して、栄養評価や栄養管理が行える総合的な能力を養うことを目的とした「総合演習」科目を設置する。
- (5) 専門分野の中に、管理栄養士として必要な技能を修得することを目的として、「実験・実習」科目を設置する。
- (6) 専門分野の「実験・実習」科目の中に「臨地実習」科目を設置し、実践活動の場で課題を発見し、それを解決することを通して、他者とのコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につけるとともに、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図る。
- (7) この他、企業や公共団体等において、その事業内容に応じた社会体験を行う「企業実習」と、一連の研究プロセスを経験することで、課題を解決する能力を身につけるための「卒業研究」を設置する。

(履修方法・順序)

- (1) 基礎科目は、1年次に履修する。
- (2) 専門基礎分野のうち「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」と「食べ物と健康」の科目は、主に1、2年次に履修する。「社会・環境と健康」の科目は、主に3年次に履修する。
- (3) 専門分野の科目については、主に2、3年次に履修する。
- (4) 専門分野の「臨地実習」科目は、3年次に履修する。
- (5) 「企業実習」と「卒業研究」は、4年次に履修する。

(教育方法)

- (1) 専門教育科目に、共通教養教育科目のうちの必修科目と履修を推奨する選択科目を加えた「健康栄養学部カリキュラム構成図・履修モデル」「健康栄養学部履修モデル(栄養教諭)」を提示し、履修指導を行う。
- (2) 「実験・実習」科目以外の基礎科目、専門基礎分野、専門分野の科目は、事前・事後課題を与える他、グループワークや演習等により、学生が主体的に学ぶ方法を取り入れる。

(評価)

各授業科目では、達成目標を定め、達成目標並びに成績の評価方法と評価基準を学生に周知し、それに基づき成績を評価する。学生の「授業評価アンケート」による授業評価と、卒業前に行う「管理栄養士専門的能力到達度アンケート」による学生の自己評価の2つの評価に基づいてカリキュラムの評価・改善を図ることで、教育の質の保証に努める。

アドミッション・ポリシー

健康栄養学部は、人間や健康の本質を理解しながら、生命の源である「食」を探究し、人々が健康に生活できるよう貢献できる栄養や食生活の専門家を養成することを目的としています。

したがって、健康栄養学部では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 地域社会や人間、健康そして「食」に対して興味・関心を持ち、さらにこれらを探求する意欲のある人〔関心・意欲〕
2. 物事に主体的かつ積極的に取り組む姿勢をもつ人〔主体性〕

3. 健康栄養学部の特長分野を学ぶために、高等学校等で修得すべき理系科目も含めた基礎的な知識・教養を身につけた人〔知識・教養〕
4. 幅広い視野と柔軟な感性を有し、今までの知識・教養をもとに論理的な思考によって適切に判断できる人〔思考力・判断力〕
5. 社会の一員であることを自覚し、他人の立場にたって考えることができ、コミュニケーション能力がある人〔表現力・協働性〕

入学者選抜の基本方針

健康栄養学部が行う入学者の選抜方法には、一般選抜(前期日程)、学校推薦型選抜(県内・全国)、社会人選抜、私費外国人留学生選抜があります。

・一般選抜(前期日程)

大学入学共通テストの国語・数学・理科・外国語を課すとともに、個別学力検査等では、面接を行います。面接は、プレゼンテーション形式で行い、受験者は与えられたテーマに関して自分の考えを決められた時間内でまとめて、発表(プレゼンテーション)します。面接者は、調査書も参考にして質問し、知識・教養、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性を評価します。

・学校推薦型選抜(県内・全国)

学校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、小論文と面接により健康栄養学部で学ぶ上で必要な知識・教養、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性を評価します。なお、面接は、プレゼンテーション形式で行い、受験者は与えられたテーマに関して自分の考えを決められた時間内でまとめて、発表(プレゼンテーション)します。面接者は、調査書・推薦書も参考にして質問します。

・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、学校推薦型選抜や一般選抜同様、プレゼンテーション形式の面接を行うとともに、高等学校等までの理科・数学の基礎的な学力に関する口頭試問を行うことで、関心・意欲、知識・教養、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性を総合的に評価します。

・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、大学での学習に必要な基礎的な日本語能力と数学や理科の知識を評価するために日本留学試験を用います。面接では、理科・数学の基礎的な学力に関する口頭試問を行うとともに、日本語によるプレゼンテーション形式の面接を行います。面接者は、日本留学試験の日本語「記述」答案や志望動機書も参考にして質問します。これらにより、関心・意欲、知識・教養、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性を総合的に評価します。

【大 学 院】

○看護学研究科 看護学専攻 博士前期課程

ディプロマ・ポリシー

博士前期課程は、広い視野に立って精深な学識を授け、高度な専門的実践能力と看護学分野における研究能力を養うことを目的とする。

1. 個人－家族－地域を多角的、複眼的視点で捉え、看護専門領域に関する理論、関連領域の知識・技術、高い倫理観を基盤として、エビデンスに基づく高度な看護実践ができる能力を有している。
2. 地域社会や生活環境の中で、人々が自立して健康生活を営むことができるように、地域の人々と協働して、健康を促進する地域文化の形成・発展に貢献できる能力を有している。
3. 社会のニーズや健康に関する課題に積極的に関与し、他の職種の専門性を尊重した上で協働しながら社会状況に対応する方略を開発する能力を有している。
4. 学際的視点をふまえて看護実践の場、教育や政策の場で看護現象を研究的視点でとらえ、論理的思考力、リーダーシップとマネジメント力を発揮して変革者として貢献できる能力を有している。
5. 看護実践を支える科学的・哲学的基盤を理解し、看護研究を通して、看護学の体系化とその発展に貢献できる教育・研究能力を有している。
6. 国際的動向や多様な文化に関する幅広い知識や最新の情報を備えて、看護をグローバルな視点から捉え、看護の普遍性の追求と体系化に貢献できる能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

博士前期課程では、広い視野に立って精深な学識を授け、高度な専門的実践能力と看護学分野における研究能力を養うために、教育理念に基づき、高度実践看護師(以下CNS)コース、研究コース及び実践リーダーコースを設け、以下のようなカリキュラム(教育課程)を編成している。

(構造・内容)

1. カリキュラムを構成する科目群として「共通科目(大学院共通科目・専攻共通科目)」、「領域専門科目」及び「研究支援科目」の科目群をおく。
2. CNSコースは、がん看護学、慢性看護学、クリティカルケア看護学、小児看護学、老人看護学、精神看護学、家族看護学、在宅看護学の8領域を設け、各領域で必要な講義・演習・実践演習・課題研究を含む、専門看護師認定試験受験に必要な科目をおく。
3. 研究コースは、共創看護学、成人看護学、母性看護学、小児看護学、家族看護学、地域看護学、災害・国際看護学、看護管理学の8領域を設け、各領域で必要な講義・演習・研究を含む科目をおく。
4. 実践リーダーコースは、臨床看護学と地域保健学の2領域を設け、各領域で必要な講義・演習・研究を含む科目をおく。
5. 認定看護管理者認定審査受験、養護教諭専修免許、高等学校教諭(看護)専修免許に必要な科目をおく。

(順序性)

6. 1年次は看護学の学術的基盤を形成するためにCNSコース、研究コース、実践リーダーコースともに共通科目、1年次後半から2年次は専門性を高める領域専門科目を選択し、コースワークを踏まえて研究支援科目を履修できるように編成している。
7. 修士論文作成に向けて、2年次に研究計画書の提出、中間報告会の開催、修士論文を提出するように編成している。

(教育方法)

8. 前期課程のディプロマ・ポリシーに沿う能力を学生の将来ビジョンに向けて修得できるように、CNSコース、研究コース、実践リーダーコースの履修モデルを提示し、履修指導を行う。
9. 前期課程のディプロマ・ポリシーに沿う能力を学生が修得できるように、講義、演習、実習、研究指導を行う。事前・事後課題、グループワーク、グループ討議、アクティブラーニング、シミュレーション等により、学生が主体的に学ぶ方法、専門性を高める方法を取り入れる。
10. 実践リーダーコースは、大学院設置基準第14条特例に基づくコースで、授業は原則、土曜日・日曜日に開講する。

(評価方法)

11. 各講義科目・演習科目・実習科目では、前期課程のディプロマ・ポリシーに沿った達成目標および成績評価の方法・基準をシラバスや実習要項により周知し、自己評価・授業評価、教員による評価を行う。修了時にはディプロマ・ポリシーに基づく評価(論文審査・最終試験)を行う。
12. 修了時には学生によるディプロマ・ポリシーの達成度、修士課程で修得すべき能力の評価、カリキュラム評価を行い、カリキュラムの評価・改善を図り、教育の質保証を行う。

アドミッション・ポリシー

博士前期課程は、広い視野に立って、精深な学識を授け、高度な専門的実践能力と看護学分野における研究能力を有する人材を育成します。

したがって、博士前期課程では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 看護理論や看護研究に対する基礎的知識と科学的思考力をもつ人
2. 専門的知識・技術に基づき看護を展開する能力をもつ人
3. 看護学を創造していくために必要な自らの看護観・人間観・倫理観をもつ人
4. 看護現象を多面的に捉え、看護学を探究する力をもつ人
5. 生涯にわたって高度実践看護職者・教育者として、研鑽し続ける力をもつ人
6. 社会の変化や健康課題についての問題意識をもち、保健医療福祉や看護学教育を革新したいと考えている人

入学者選抜の基本方針

博士前期課程における入学者選抜の出願区分として「一般」及び「学内推薦」をおきます。各出願区分の入学者選抜の基本方針は以下のとおりとします。

・一般(入試)

本区分では、「英語」「小論文」「専門科目」「面接」の試験を行い、以下の能力を総合的に評価します。

英語:英文の読解能力と設問の内容を的確に把握し、解答する能力について評価します。

小論文:看護学の発展に寄与する専門的知識、看護に対する専門職業人としての洞察力、論理性と抽象的に思考する力を評価します。

専門科目:看護の専門的能力(専門的知識、実践能力)、論理的思考力及び社会や健康に関わる課題を分析する能力について評価します。

面接:看護専門職業人としての能力、基礎的な知的能力及び研究を遂行していく能力を点数化して評価しま

す。実践リーダーコースにおいては面接時に研究計画書を活用します。

・学内推薦(入試)

本区分では、「小論文」「面接」の試験を行い、以下の能力を総合的に評価します。

小論文:看護学の発展に寄与する専門的知識、看護に対する専門職業人としての洞察力、論理性と抽象的に思考する力を評価します。

面接:看護専門職業人としての能力、基礎的な知的能力及び研究を遂行していく能力を点数化して評価します。

○看護学研究科 看護学専攻 博士後期課程

ディプロマ・ポリシー

博士後期課程は、看護学の学術的基盤を発展させるために看護学に関する学術と研究を国際的・学際的に推進し、その深奥を究め、創造的に自立して研究活動を行う高度な専門的能力を養うことを目的とする。

1. 看護の学識者としての責務を果たし、看護学の発展の基盤となる普遍性を有する看護哲学を追求し続ける能力を有している。
2. 看護学の学術的な基盤を発展させるために、グローバルスタンダードで看護学の知識や技術を研究開発し、看護学にイノベーションをもたらす能力を有している。
3. 最新の看護学の知識や技術、看護関連分野の知見等を活用し、倫理的・文化的基盤を持って人や社会に貢献するケアの開発に取り組み、人々の安心な生活の実現やQOLの向上を推進していくことのできる能力を有している。
4. 看護学を発展させ新たな知見を創生する研究活動を行い、社会に向けて提言できる能力を有している。
5. 国内外の専門職と連携して、政策開発や意思決定に参加し、健康医療福祉システムの構築や変革をもたらす能力を有している。
6. 科学的・学際的な基盤を持って人々の健康生活や健康文化を創造することに寄与する、次世代の高度実践看護者を養成する高等教育を担う能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

博士後期課程では、看護学の学術的基盤を発展させるために看護学に関する学術と研究を国際的・学際的に推進し、その深奥を究め、創造的に自立して研究活動を行う高度な専門的能力を養うために、教育理念に基づき以下のようなカリキュラム(教育課程)を編成している。

(構造・内容)

1. カリキュラムを構成する科目群として、専攻共通科目、専攻専門科目および研究支援科目の科目群をおく。
2. 分野として、共創看護学、がん看護学、成人看護学、小児看護学、老人看護学、精神看護学、家族看護学、在宅看護学、地域看護学、学校保健学、災害・国際看護学、看護病態生理学、看護経営管理学の分野をおく。
3. 専攻共通科目は、看護学の学術的基盤を発展させ高度な研究能力を育成するためにおく。
4. 専攻専門科目は、新たな専門的知識の蓄積・精選・拡充などをはかり、特定の看護分野の専門性を構築する科目としておく。
5. 研究支援科目は、研究課題を探究し、段階的に博士論文作成のプロセスを支持する科目としておく。

(順序性)

6. 専攻共通科目と専門性に応じて専攻専門科目を選択し、コースワークを踏まえて、3年間にわたり看護学特別研究を履修できるように編成している。
7. 博士論文作成に向けて、1年次には研究計画書の提出、2年次には中間報告会の開催、3年次には一次審査論文の提出を課し、博士論文を提出するように編成している。

(教育方法)

8. 後期課程のディプロマ・ポリシーに沿う能力を修得できるように、履修モデルに基づき履修指導を行い、コースワークの推進、博士論文作成指導、学位審査等の教育のプロセスを支援する。
9. 研究能力を高めるために、入学時より主指導教員および副指導教員をおき、複数指導教員体制で博士論文作成指導にあたる。

(評価方法)

10. 後期課程のディプロマ・ポリシーに沿った達成目標および成績評価の方法・基準を周知し、自己評価・授業評価、教員による評価を行う。修了時にはディプロマ・ポリシーに基づく評価、博士課程で修得すべき能力の評価等(最終試験)を行う。
11. 博士論文は、主指導教員および副指導教員による研究計画書審査、倫理審査、中間報告会、公聴会を経て、博士論文審査基準に基づき学位審査委員会において審査を行う。

アドミッション・ポリシー

博士後期課程は、看護学の学術基盤を発展させるために看護学に関する学術と研究を国際的・学際的に推進し、その深奥を究め、創造的に自立して研究活動を行う高度な専門的能力を有する人材を育成します。

したがって、博士後期課程では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 豊かな人間性と倫理観をもち、人々の健康や社会に対して探究する力をもつ人
2. 看護学の専攻分野の深い知識及び柔軟な発想力と創造力をもつ人
3. 看護学に関連する課題に関心をもち、課題解決に向けて研究を遂行する力をもつ人
4. 普遍性を追求し、看護学の発展に寄与する意志をもつ研究者・教育者を目指す人
5. 国際的、学際的見地から看護研究や看護学教育を通して社会に貢献したいと考えている人

入学者選抜の基本方針

博士後期課程における入学者選抜では、「英語」「小論文」の筆記試験を行い、口述試験と提出された研究計画書をもとに、以下の能力を総合的に評価します。

英語:英文の読解力、設問の内容を的確に把握し解答する能力を点数化して評価します。

小論文:看護学の学術基盤や研究の発展に寄与する能力と論理性、抽象的思考力、分析力、独創性について評価します。

口述試験:看護学の専門性、研究を進めていくために必要な能力を点数化して評価します。

研究計画書:研究課題に対する知識、研究の意義、研究目的、研究方法の記述から研究遂行能力について評価します。

○看護学研究科 博士課程

ディプロマ・ポリシー

修了要件は、履修単位を 50 単位以上修得し、かつ必要な研究指導を受けて、博士論文の審査及び最終試験に合格することを定めています。審査においては、本課程の教育目的に対応した能力について総合的に評価を行い、修了要件を満たす者に博士(看護学)とし、(DNGL:Disaster Nursing Global Leader)を付記した、学位を授与します。

- 人間の安全保障を理念として、いかなる災害状況でも「その人らしく健康に生きる」ことを支援することができる能力を有している。
- 災害サイクル諸局面において「健康に生きるための政策提案」に取り組むことができる能力を有している。
- グローバルな視点から安全安心社会の実現に向けて、産学官との連携を築き、制度やシステムを変革できる能力を有している。
- 学際的な視点、国際的な視点から災害看護学を構築し、災害看護学を研究開発できる能力を有している。

カリキュラム・ポリシー

豊かで高度な看護学専門知識を培い、学際的・国際的でグローバルな見識に基づいた研究を発展させ、特に災害看護学に関してその深奥を極め、人間の安全保障の進展に寄与する災害看護のグローバルリーダーを養成するために、教育目的に基づき以下のようなカリキュラム(教育課程)を編成しています。

- カリキュラムは、災害看護学の基盤となる「災害看護学の基盤を支える科目群」、災害看護学を学問として構築する能力を養うための「災害看護学の専門科目群」、災害看護学に関する専門的な実践や研究、グローバルリーダーとしての機能・役割を身につけるための「インデペンデント学修科目群」及び「災害看護学研究支援科目群」の4つの科目群によって構成する。
- 学生が自分の関心や課題に沿って自律的に学び、グローバルリーダーとしての能力を培うことができるように、「インデペンデント学修科目群」に「インデペンデントスタディ」を科目として置く。
- 構成大学院(「高知県立大学大学院看護学研究科」「兵庫県立大学大学院看護学研究科」「千葉大学大学院看護学研究科」「東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科」「日本赤十字看護大学大学院看護学研科」)は、学生が各構成大学院から10単位以上の履修ができるように必要な科目を開講する。
- 学修の課程で、その成果を確認するために Preliminary Examination と Qualifying Examination を行う。
- 構成大学院の専任教員による研究指導体制の下で、災害看護学に関連する理論、高度な実践や研究についての知識を統合して災害看護学の「博士論文」を作成し、提出できるように編成している。

アドミッション・ポリシー

本大学院の理念・目的に基づき、次のような資質をもつ人材を受け入れます。

- 災害看護グローバルリーダーとしてのビジョンを持っている人材。
- 災害看護グローバルリーダーとしての活動にコミットメントでき、その能力を伸ばしていける人材。

※令和3(2021)年度から学生募集停止。

○人間生活学研究科 人間生活学専攻 博士前期課程

ディプロマ・ポリシー

博士前期課程では、地域社会の生活課題を解決・調整することのできる高度専門職業人としての能力を養成することを目的とする。

共通ディプロマ・ポリシー

1. 人間の生活に根ざした学問(栄養・生活学、社会福祉学、文化学)を基盤に、専攻領域及び関連領域における学術的知識を身に付けている。
2. 設定した研究課題を学際的・科学的な視点で捉え、学問の体系化と発展に寄与する研究能力を身に付けている。

領域(学位名称)別ディプロマ・ポリシー

栄養・生活学領域 <修士(生活科学)>

1. 栄養・生活に関する分野における専門的な知識と技術を身に付けている。(知識・理解)
2. 地域社会の特性を踏まえ、栄養・生活に関する諸課題を科学的視点で捉え、解決のための具体的な方策を提言できる研究能力を身に付けている。(研究遂行能力)
3. グローバルな視野を持って、栄養・生活に関する諸課題に取り組み、その過程で得られた技術や知識を世界に向けて発信できる力を身に付けている。(総合的な学修経験と創造的思考力)

社会福祉学領域 <修士(社会福祉学)>

1. 社会福祉学の分野における専門的な知識と技術を身に付けている。(知識・理解)
2. 地域社会の特性を踏まえ、社会福祉に関する諸課題を科学的視点で捉え、解決のための具体的な方策を提言できる研究能力を身に付けている。(研究遂行能力)
3. グローバルな視野を持って、社会福祉学の新たな支援方法や資源の開発等に取り組み、創造的な実践を展開できる力を身に付けている。(総合的な学修経験と創造的思考力)

文化学領域 <修士(学術)>

1. 文化研究の分野における専門的な知識と技術を身に付けている。(知識・理解)
2. 文化に関する地域の諸課題を人文科学的または社会科学的視点で捉え、解決のための具体的な方策を提言できる研究能力を身に付けている。(研究遂行能力)
3. 文化に関する諸課題に取り組み、その過程で得られた技術や知識を地域に向けて発信できる力を身に付けている。(総合的な学修経験と創造的思考力)

カリキュラム・ポリシー

博士前期課程では、地域社会の生活課題を解決・調整することのできる高度専門職業人としての能力を養成することを目的とする。この目的のために、以下の方針に基づき本課程のカリキュラムを編成する。

共通カリキュラム・ポリシー

(構造・内容)

1. カリキュラムを構成する科目区分として、「共通科目(大学院共通科目、専攻共通科目)」「専門科目(栄養・生活学領域科目、社会福祉学領域科目、文化学領域科目)」の科目群をおく。また、研究能力を総合的に養成するための研究指導科目として、領域ごとに「課題研究演習」をおく。

2. 栄養・生活学領域科目に「食物科学」「人間栄養学」「栄養・生活学」の科目群をおく。
3. 社会福祉学領域科目に「福祉専門基礎分野」「地域社会・多文化分野」「高齢分野」「障害分野」「児童・家庭分野」の科目群をおく。
4. 文化学領域科目に「地域文化」「日本文化」「英語文化」の科目群をおく。

(順序性)

5. 研究の基礎的能力を修得させるため、1年次に共通科目の「研究と倫理」(必修)と「研究方法論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」(選択必修)を履修させる。

(教育方法)

6. 学生の志望に従い、博士前期課程のディプロマ・ポリシーの能力を修得できるように、履修指導を行う。
7. 博士前期課程のディプロマ・ポリシーに沿う能力を学生が修得できるように、講義、演習、研究指導をバランスよく行う。事前・事後課題、グループ討議、アクティブラーニングなどにより、学生が主体的に学ぶ方法を取り入れる。

(評価方法)

8. 講義や演習では、博士前期課程のディプロマ・ポリシーに沿った達成目標や成績評価の方法・基準を周知し、評価を行う。修了時にはディプロマ・ポリシーに基づく評価(論文審査・最終試験)を行う。
9. 学生によるカリキュラム評価を行い、その結果に基づいてカリキュラムの改善を図る。

領域別カリキュラム・ポリシー

栄養・生活学領域 <修士(生活科学)>

栄養・生活学領域の修了要件として、共通科目から6単位以上、栄養・生活学領域を中心として3つの領域科目から18単位以上、研究指導科目6単位を履修し、計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けて、修士論文の審査及び最終試験に合格することを定めている。

(順序性)

- 1) 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるため、1年次から、栄養・生活学領域科目を中心に、共通科目や社会福祉学領域科目、文化学領域科目から履修させる。
- 2) 課題を発見し、その解決を明らかにするための研究力を修得させ、修士論文の完成へと導くため、「栄養・生活学課題研究演習」を履修させる。

(教育方法)

- 3) 栄養・生活学領域の主研究指導教員と副研究指導教員1名ずつ以外に、他の領域の副研究指導教員から多様な視点による研究指導を行う。また、学期ごとに1回、主研究指導教員と副研究指導教員による合同指導会を実施する。

社会福祉学領域 <修士(社会福祉学)>

社会福祉学領域の修了要件として、共通科目から6単位以上、社会福祉学領域を中心として3つの領域科目から18単位以上、研究指導科目6単位を履修し、計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けて、修士論文の審査及び最終試験に合格することを定めている。

(順序性)

- 1) 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるため、1年次から、社会福祉学領域科目を中心に、共通科目や栄養・生活学領域科目、文化学領域科目から履修させる。
- 2) 課題を発見し、その解決を明らかにするための研究力を修得させ、修士論文の完成へと導くため、「社会福祉学課題研究演習」を履修させる。

(教育方法)

- 3) 社会福祉学領域の主研究指導教員と副研究指導教員1名ずつ以外に、他の領域の副研究指導教員から多様な視点による研究指導を行う。また、学期ごとに1回、主研究指導教員と副研究指導教員による合同指導会を実施する。

文化学領域 <修士(学術)>

文化学領域の修了要件として、共通科目から6単位以上、文化学領域を中心として3つの領域科目から18単位以上、研究指導科目6単位を履修し、計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けて、修士論文の審査及び最終試験に合格することを定めている。

(順序性)

- 1) 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるため、1年次から、文化学領域科目を中心に、共通科目や栄養・生活学領域科目、社会福祉学領域科目から履修させる。
- 2) 課題を発見し、その解決を明らかにするための研究力を修得させ、修士論文の完成へと導くため、「文化学課題研究演習」を履修させる。

(教育方法)

- 3) 文化学領域の主研究指導教員と副研究指導教員1名ずつ以外に、他の領域の副研究指導教員から多様な視点による研究指導を行う。また、学期ごとに1回、主研究指導教員と副研究指導教員による合同指導会を実施する。

アドミッション・ポリシー

博士前期課程は、人間生活学に根ざした教育・研究を基盤とし、総合的な視点から地域社会の生活課題に取り組むことのできる人材を養成することを目的とする。このために、入学者選抜の基本方針として、以下の資質を有する人を受け入れることとする。

求める学生像

1. 人間生活や地域にかかわる諸課題に関心を持ち、その究明・解決に向けて、強い目的意識や探究心をもって取組もうとする人
2. 課題に対して積極的に取組む熱意と主体的に学ぶ意欲、やり遂げる強い意志をもつ人
3. 専攻する領域に関する基礎となる知識と柔軟な思考力をもつ人
4. 地域社会において栄養・生活、社会福祉、文化の面から住民と協働し、地域のシステムづくりを計画・遂行していく連携・調整能力及び協調性を備えた人間性豊かな人

入学者選抜の基本方針

博士前期課程における入学者選抜の出願区分として「一般」「社会人」「外国人留学生」及び「学内推薦」をおく。各出願区分の入学者選抜の基本方針は以下のとおりとする。

・一般(入試)

選抜のための方法は、以下によるものとする。

筆記試験:小論文を課すことにより、設問内容の的確な把握と解答、解答内容と志望領域の専門性との整合性、文章表現力等について評価する。

口述試験:「研究計画書」に基づく発表と質疑応答を行い、本研究科への適性や研究を遂行する基礎的能力等について評価する。本研究科への適性は、次のうちいずれか1つ以上に該当するかどうかで判断する。地域課題解決に貢献しようと考えているか、高度な専門的力量を身につけたいと考えているか、志望領域の専門的な知識や経験を問題解決のために活かそうと考えているか、などである。

研究を遂行する基礎的能力は次の諸点で評価する。研究内容(目的・方法・期待される結果)及び研究の特色(新規性・独創性)を明確に把握しているか、志望領域の専門的な基礎的知識があるか、などである。

研究計画書:研究の内容・方法、志望領域の専門性等について評価する。

・社会人(入試)

選抜のための方法は、以下によるものとする。

プレゼンテーション:「志願理由書」に基づくプレゼンテーションと質疑応答により、志望動機、活動・意欲、態度等について評価する。

面接試験:「研究構想書」に基づく質疑応答を行い、本研究科で何を学びたいのか、受験者の専門性、研究構想内容の適切さ、志望領域の専門的な基礎知識、入学後の学習等についての計画などについて評価する。
なお、本区分での出願にあたっては、大学院入試説明会に出席した上で事前面談を経なければならない。

・外国人留学生(入試)

選抜のための方法は、以下によるものとする。

プレゼンテーション:「志願理由書」に基づくプレゼンテーションと質疑応答により、志望動機、活動・意欲、態度等について評価するとともに、日本語の会話能力について確認をする。

面接試験:「研究構想書」に基づく質疑応答を行い、本研究科で何を学びたいのか、受験者の専門性、研究構想内容の適切さ、志望領域の専門的な基礎知識、入学後の学習等についての計画などについて評価する。

・学内推薦(入試)

選抜のための方法は、以下によるものとする。

筆記試験:小論文を課すことにより、設問内容の的確な把握と解答、文章表現力等について評価する。

口述試験:「研究計画書」に基づく発表と質疑応答を行い、本研究科への適性や研究を遂行する基礎的能力等について評価する。本研究科への適性は、次のうちいずれか1つ以上に該当するかどうかで判断する。地域課題解決に貢献しようと考えているか、高度な専門的力量を身につけたいと考えているか、志望領域の専門的な知識や経験を問題解決のために活かそうと考えているか、などである。

研究を遂行する基礎的能力は次の諸点で評価する。研究内容(目的・方法・期待される結果)及び研究の特色(新規性・独創性)を明確に把握しているか、志望領域の専門的な基礎的知識があるか、などである。

研究計画書:研究の内容・方法、志望領域の専門性等について評価する。

○人間生活学研究科 博士後期課程

ディプロマ・ポリシー

博士後期課程は、博士前期課程において修得した知識及び技術を基盤とし、自立して継続的な研究活動を遂行できる高度専門職業人としての能力及び高等教育の発展に寄与する教育研究者としての能力を涵養することを目的とする。

共通ディプロマ・ポリシー

1. 人間の生活に根ざした学問体系の確立と発展に寄与し、学際的研究を自立して展開する能力を身に付けている。
2. 研究分野に関する国内外の動向を俯瞰的に把握し、学際的な関連分野の知見をふまえて、自己の研究の位置づけを明確にすることができる。
3. 人間の生活に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて研究を実践する能力を身に付けている。

領域(学位名称)別ディプロマ・ポリシー

栄養・生活学領域 <博士(生活科学)>

1. 栄養・生活に関する分野における高度に専門的な知識を持ち、栄養・生活に関する分野を系統的・統合的に理解する能力を身に付けている。(知識・理解)
2. 栄養・生活に関する諸課題を総合的・学際的な視点で捉え、研究を通して課題解決に資するための高度な論理的思考力を身に付けている。(研究遂行能力)
3. 栄養・生活に関する分野における研究の発展に寄与する新たな知見を研究成果として公表する能力を身に付けていると同時に、社会に向けて提言することができる。(研究遂行能力)
4. グローバルな視野を持った教授者として、栄養・生活に関する分野における専門職教育を担う能力を身に付けている。(総合的な学修経験と創造的思考力)

社会福祉学領域 <博士(社会福祉学)>

1. 社会福祉分野における高度に専門的な知識を持ち、社会福祉学を系統的・統合的に理解する能力を身に付けている。(知識・理解)
2. 社会福祉学に関する諸課題を総合的・学際的な視点で捉え、研究を通して課題解決に資するための高度な論理的思考力を身に付けている。(研究遂行能力)
3. 社会福祉学の分野における研究の発展に寄与する新たな知見を研究成果として公表する能力を身に付けていると同時に、社会に向けて提言することができる。(研究遂行能力)
4. グローバルな視野を持って、地域共生社会の実現に向けて指導的役割を担うことができる研究者および専門職業人としての能力を身に付けている。(総合的な学修経験と創造的思考力)

文化学領域 <博士(学術)>

1. 文化研究の分野における高度に専門的な知識と系統的・統合的に理解する能力を身に付けている。(知識・理解)
2. 文化に関する事象や課題を人文科学的または社会科学的な視点で捉え、研究を通して課題解決に資するための高度な論理的思考力を身に付けている。(研究遂行能力)
3. 文化に関する研究分野の発展に寄与する新たな知見を提供し、広く社会に発信することができる。(研究遂行能力)

4. グローバルな視野を持って、文化に関する研究能力を活かし、研究成果を公表することができる。(総合的な学修経験と創造的思考力)

カリキュラム・ポリシー

博士後期課程は、博士前期課程において修得した知識及び技術を基盤とし、自立して継続的な研究活動を遂行できる高度専門職業人としての能力及び高等教育の発展に寄与する教育研究者としての能力を涵養することを目的とする。本課程は、以下の方針に基づきカリキュラムを編成する。

共通カリキュラム・ポリシー

(構造・内容)

1. カリキュラムを構成する主要科目群として、「専攻共通科目」、「専門科目」及び「研究指導科目」をおく。
2. 専攻共通科目群は、人間生活に係わる諸問題に対し、多角的な視点から接近することのできる能力を涵養することを目的とする。
3. 専門科目群に、「栄養・生活学」、「社会福祉学」、及び「文化学」の3領域をおく。
4. 専門科目群は、学術研究の動向についての理解を深化させることを目的とする。
5. 研究指導科目として、領域ごとに「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」をおく。

(評価方法)

6. 博士後期課程のディプロマ・ポリシーに沿った到達目標並びに成績評価の方法及び基準を周知する。
7. 博士後期課程の修了時には、ディプロマ・ポリシーに基づく評価、博士後期課程で修得すべき能力の評価等の最終試験を実施する。
8. 学位授与の審査は、主研究指導教員及び副研究指導教員による研究計画書審査、中間報告会、博士論文第一次審査及び公聴会における口頭発表を経た後、博士論文審査基準に準拠し学位審査委員会において審査を行う。

領域別カリキュラム・ポリシー

栄養・生活学領域 <博士(生活科学)>

(順序性)

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるコースワークとして、1年次に栄養・生活学領域科目を中心としつつ、専攻共通科目や社会福祉学領域科目、文化学領域科目からも履修させる。
2. 分析に必要な知識及び技法を修得しながら、主体的な問題意識に沿って研究課題を設定し、合理的で遂行可能な研究計画を立案させるため、1年次に「栄養・生活学特別研究Ⅰ」を履修させる。加えて研究計画書の提出をさせる。
3. 研究計画書に従って研究を進め、指導教員とともに検討をするため、2年次に「栄養・生活学特別研究Ⅱ」を履修させる。また加えて、その成果を中間報告会で発表させる。
4. 収集した資料やデータを分析・検証しながら博士論文の執筆へと移行していくことができるように、3年次に「栄養・生活学特別研究Ⅲ」を履修させる。博士論文第一次審査を9月に行い、1月に博士論文を提出させる。

(教育方法)

5. 学生の志望に従い、博士後期課程のディプロマ・ポリシーの能力を修得できるように、履修指導を行い、コースワークを履修させ、博士論文作成に至るための支援をする。
6. 多様な視点から研究指導が得られるように、栄養・生活学領域の主研究指導教員と副研究指導教員各1名

のほか、他領域から副研究指導教員を選ぶこととする。必要に応じて人間生活学研究科以外の教員・研究者を副研究指導教員として入れる。

社会福祉学領域 <博士(社会福祉学)>

(順序性)

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるコースワークとして、1年次に社会福祉学領域科目を中心としつつ、専攻共通科目や栄養・生活学領域科目、文化学領域科目からも履修させる。
2. 分析に必要な知識及び技法を修得しながら、主体的な問題意識に沿って研究課題を設定し、合理的で遂行可能な研究計画を立案させるため、1年次に「社会福祉学特別研究Ⅰ」を履修させる。加えて研究計画書の提出をさせる。
3. 研究計画書に従って研究を進め、指導教員とともに検討をするため、2年次に「社会福祉学特別研究Ⅱ」を履修させる。また加えて、その成果を中間報告会で発表させる。
4. 収集した資料やデータを分析・検証しながら博士論文の執筆へと移行していくことができるように、3年次に「社会福祉学特別研究Ⅲ」を履修させる。博士論文第一次審査を9月に行い、1月に博士論文を提出させる。

(教育方法)

5. 学生の志望に従い、博士後期課程のディプロマ・ポリシーの能力を修得できるように、履修指導を行い、コースワークを履修させ、博士論文作成に至るための支援をする。
6. 多様な視点から研究指導が得られるように、社会福祉学領域の主研究指導教員と副研究指導教員各1名のほか、他領域から副研究指導教員を選ぶこととする。必要に応じて人間生活学研究科以外の教員・研究者を副研究指導教員として入れる。

文化学領域 <博士(学術)>

(順序性)

1. 複数の領域にわたる幅広い学識を修得させるコースワークとして、1年次に文化学領域科目を中心としつつ、専攻共通科目や栄養・生活学領域科目、社会福祉学領域科目からも履修させる。
2. 分析に必要な知識及び技法を修得しながら、主体的な問題意識に沿って研究課題を設定し、合理的で遂行可能な研究計画を立案させるため、1年次に「文化学特別研究Ⅰ」を履修させる。加えて研究計画書の提出をさせる。
3. 研究計画書に従って研究を進め、指導教員とともに検討をするため、2年次に「文化学特別研究Ⅱ」を履修させる。加えて、その成果を中間報告会で発表させる。
4. 収集した資料やデータを分析・検証しながら博士論文の執筆へと移行していくことができるように、3年次に「文化学特別研究Ⅲ」を履修させる。博士論文第一次審査を9月に行い、1月に博士論文を提出させる。

(教育方法)

5. 学生の志望に従い、博士後期課程のディプロマ・ポリシーの能力を修得できるように、履修指導を行い、コースワークを履修させ、博士論文作成に至るための支援をする。
6. 多様な視点から研究指導が得られるように、文化学領域の主研究指導教員と副研究指導教員各1名のほか、他領域から副研究指導教員を選ぶこととする。必要に応じて人間生活学研究科以外の教員・研究者を副研究指導教員として入れる。

アドミッション・ポリシー

博士後期課程は、人間生活学を基盤とした教育・研究を基盤とし、自立した研究者として知識基盤社会を支える能力と次世代の高等教育を担う人材を養成することを目的としています。したがって、博士後期課程では、次のような人を求めています。

求める学生像

1. 社会の生活課題に関心を有し、明確な目的意識、強い探究心、並びに研究的手法をもって課題の解決に取り組もうとする人
2. 課題達成への強い熱意をもち、学術研究に意欲的に取り組む人
3. 専門分野に関する深い知識、柔軟な発想力及び創造力をもつ人
4. 地域社会において栄養・生活、社会福祉、文化の面から住民と協働し、地域のシステムづくりを計画・遂行していく連携・調整能力及び協調性を備えた人間性豊かな人であると同時に、人間生活の向上に寄与できる豊かな人間性と研究倫理を有し、研究者及び高等教育を担う教育研究者をめざす人

入学者選抜の基本方針

博士後期課程の入学者選抜では、「筆記試験」「領域専門」及び「口述試験」を行い、提出された研究計画書と併せて、以下の能力を総合的に評価する。

筆記試験:英文の読解力と設問の内容を的確に把握し解答する能力について評価する。

領域専門:社会福祉学領域及び文化学領域では、小論文により、研究を進めるうえでの専門知識と論理性、抽象的思考力、分析力、独創性、設問の内容を的確に把握し解答する能力について評価する。栄養・生活学領域では、プレゼンテーションにより、研究を進めるうえでの専門知識、プレゼンテーションに基づく論理性、抽象的思考力、分析力、独創性、質問の内容を的確に把握し解答する能力について評価する。

口述試験:研究計画についての発表と質疑応答を行い、志願領域の専門性や、研究を進めていくための必要な能力について評価する。

研究計画書:研究課題に対する知識、研究の意義、研究目的、研究方法、記述等について評価する。

2 受講者の状況

【学 部】

(1) 共通教養教育科目

リテラシー科目

○文化学部 文化学科

(単位:人)

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
英語コミュニケーションⅠA	未開講	英語コミュニケーションⅡ応用エッセーライティング	14
英語コミュニケーションⅠB	未開講	情報処理概論	128
英語コミュニケーションⅠC	305	ITリテラシー	101
英語コミュニケーションⅠD	181	コンピュータリテラシー	155
英語コミュニケーションⅡ基礎プレゼンテーション	19	ビジネスリテラシー	37
英語コミュニケーションⅡ応用プレゼンテーション	14	日本語表現法	未開講
英語コミュニケーションⅡ基礎エッセーライティング	23		

○看護学部 看護学科

(単位:人)

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
英語コミュニケーションⅠA	未開講	英語コミュニケーションⅡ応用エッセーライティング	0
英語コミュニケーションⅠB	未開講	情報処理概論	28
英語コミュニケーションⅠC	154	ITリテラシー	21
英語コミュニケーションⅠD	79	コンピュータリテラシー	68
英語コミュニケーションⅡ基礎プレゼンテーション	1	ビジネスリテラシー	0
英語コミュニケーションⅡ応用プレゼンテーション	0	日本語表現法	未開講
英語コミュニケーションⅡ基礎エッセーライティング	0		

○社会福祉学部 社会福祉学科

(単位:人)

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
英語コミュニケーションⅠA	未開講	英語コミュニケーションⅡ応用エッセーライティング	1
英語コミュニケーションⅠB	未開講	情報処理概論	1
英語コミュニケーションⅠC	137	ITリテラシー	81
英語コミュニケーションⅠD	71	コンピュータリテラシー	71
英語コミュニケーションⅡ基礎プレゼンテーション	6	ビジネスリテラシー	0
英語コミュニケーションⅡ応用プレゼンテーション	0	日本語表現法	未開講
英語コミュニケーションⅡ基礎エッセーライティング	5		

○健康栄養学部 健康栄養学科

(単位:人)

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
英語コミュニケーションⅠA	未開講	英語コミュニケーションⅡ応用エッセーライティング	0
英語コミュニケーションⅠB	未開講	情報処理概論	18
英語コミュニケーションⅠC	75	ITリテラシー	30
英語コミュニケーションⅠD	40	コンピュータリテラシー	31
英語コミュニケーションⅡ基礎プレゼンテーション	1	ビジネスリテラシー	0
英語コミュニケーションⅡ応用プレゼンテーション	1	日本語表現法	未開講
英語コミュニケーションⅡ基礎エッセーライティング	0		

教養基礎科目

(単位:人)

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
科学と人間	11	法学	48
基礎化学	31	政治学	45
基礎生物学	273	経済学	55
物理と自然法則	7	倫理学	302
地球の科学	24	哲学	156
数学入門	2	文学	85
データサイエンス入門	60	基礎ジェンダー学	188
社会調査基礎論	10	心理学	250
日本国憲法	170		

課題別教養科目

(単位:人)

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
生活と社会福祉	76	労働と人権	未開講
現代生活論	102	地域とグローバリゼーション	未開講
環境と健康と安全	18	家族関係論	130
自然災害と防災の科学	120	異文化理解海外フィールドワーク	25
平和論	未開講	人権教育論	74
現代人権論	64		
ジェンダーとキャリア	未開講		

健康・スポーツ科目

(単位:人)

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
健康スポーツ科学Ⅰ	274	健康とヘルスプロモーション	5
健康スポーツ科学Ⅱ	221	栄養と健康	62
対人関係とメンタルヘルス	151		

域学共生科目

(単位:人)

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
地域学概論	332	専門職連携論	113
土佐の歴史と文化	44	チーム形成論	68
土佐の経済とまちづくり	74	地域学実習Ⅰ	350
土佐の自然と暮らし	185	地域学実習Ⅱ	217
土佐の食と健康	216	域学共生実習	15

【 学 部 】

(2)専門教育科目

○文化学部 文化学科

(その1)				(単位:人)				
授 業 科 目			受講者数	授 業 科 目			受講者数	
文化学部共通科目	リテラシー科目	基礎演習	158	文化学部専門科目	国際文化領域	異文化理解Ⅲ	9	
		中国語基礎Ⅰ	99			国際日本学	6	
		中国語基礎Ⅱ	90			比較日本学Ⅱ(～2018)	1	
		ドイツ語基礎Ⅰ	20			比較日本学	41	
		ドイツ語基礎Ⅱ	20			国際関係論	56	
		フランス語基礎Ⅰ	27			国際開発論	12	
		フランス語基礎Ⅱ	25			国際文化専門演習Ⅰ	26	
		日本語Ⅰ	3			国際文化専門演習Ⅱ	19	
		日本語Ⅱ	3					
		情報処理演習	184					
		文献調査論	165					
		基礎読書法	120					
	エッセンシャル科目	文化哲学	186		言語文化系	日本語学領域	日本語史	82
		文化人類学	194				日本語音声学・音韻論	69
		文化と権利	137				日本語学講読	63
		文化と裁判	124				日本語文章構成論	94
		公共哲学	62				国語教育学講読Ⅰ	45
		民俗学	86				国語教育学講読Ⅱ	15
		文化と経済	59				日本語教育学概論	14
		日本文学概論	151				日本語教育教材論	12
		言語学概論	165			日本語学専門演習Ⅰ	38	
		日本語学概論	141			日本語学専門演習Ⅱ	30	
		グローバル平和論	124					
		社会調査論	52			日本文学領域	基礎古典	101
		域学共生フィールドワーク	9				日本文学史(古典)	44
		文化学課題研究ゼミナールⅠ	142				日本文学史(近代)	31
		文化学課題研究ゼミナールⅡ	137				古典文学基礎講読Ⅰ	86
		文化学課題研究ゼミナールⅢ	145				古典文学基礎講読Ⅱ	76
		文化学課題研究ゼミナールⅣ	152				古典文学講読Ⅰ	2
			古典文学講読Ⅱ		3			
			近代文学講読		42			
			現代文学講読		81			
キャリア形成科目	キャリアデザイン論	138		中国文学史	48			
	キャリア形成論	125		中国文学講読(散文)	48			
	企業実習	34		中国文学講読(韻文)	32			
文化学部専門科目	言語文化系	英語学領域		日本文学専門演習Ⅰ	38			
				日本文学専門演習Ⅱ	33			
				書道	34			
			地域文化創造系	地域文化領域	地域文化論	207		
					日本思想史	8		
					日本文化論	125		
					地域文化資源論Ⅰ	96		
					地域文化資源論Ⅱ	82		
					文化政策論	96		
					男女共同参画社会論	30		
					地域防災論	145		
					住文化論	119		
					地域文化専門演習Ⅰ	25		
	地域文化専門演習Ⅱ	19						
	地域づくり領域	地域づくり論		170				
		地域産業論		61				
		地域分析論		53				
		地方自治論		121				
		NPO論		54				
		地域づくりフィールドスタディ		64				
	地域づくり専門演習Ⅰ	25						
	地域づくり専門演習Ⅱ	21						

(その2)

(単位:人)

授 業 科 目				受講者数	授 業 科 目				受講者数
文化学部専門科目	地域文化創造系	観光文化領域	観光文化論Ⅰ	60	文化学部専門科目	地域文化創造系	現代法文化領域	文化と人権	158
			観光文化論Ⅱ	77				文化と統治システム	159
			景観文化論	133				社会秩序と法	115
			観光と自然環境	154				犯罪と法	78
			観光文化フィールドスタディⅠ	19				情報化社会と法文化	70
			観光文化フィールドスタディⅡ	10				地域社会と法文化	161
			観光フィールド専門演習Ⅰ	30				現代法文化専門演習Ⅰ	10
			観光フィールド専門演習Ⅱ	36				現代法文化専門演習Ⅱ	7
		観光まちづくり領域	観光学総論	64			生活法文化領域	生活と法文化	112
			観光まちづくり論Ⅰ	58				災害と法	105
			観光まちづくり論Ⅱ	8				ワーク・ライフ・バランスと法	51
			観光産業論(～2018)	1				労働契約と法文化	83
			観光産業論Ⅰ	175				社会保障と法文化	33
			観光産業論Ⅱ	未開講				家族関係と法文化	34
			観光企画論	98				生活法文化専門演習Ⅰ	10
			観光まちづくりフィールドスタディⅠ	19				生活法文化専門演習Ⅱ	7
			観光まちづくりフィールドスタディⅡ	11					
			観光まちづくり専門演習Ⅰ	28					
			観光まちづくり専門演習Ⅱ	35					

○看護学部 看護学科

(その1)			(単位:人)				
授 業 科 目			受講者数	授 業 科 目			受講者数
専 門 基 礎 科 目		医学の世界	82	看 護 基 礎 科 目	看 護 援 助 学	症状と看護	83
		生化学	82			看護援助の動向と課題	未開講
		栄養学	82			ふれあい看護実習	81
		薬理学	85			看護基盤実習	88
		微生物学	83			看護実践能力開発実習Ⅰ	87
		人体の構造Ⅰ	82			看護システム論	未開講
		人体の構造Ⅱ	81		看護サービス論	78	
		人体の機能Ⅰ	104		看護教育論	未開講	
		人体の機能Ⅱ	90		看護管理の動向と課題	未開講	
		人体のしくみの乱れⅠ	87		チーム医療実習	83	
		人体のしくみの乱れⅡ	92		看護管理実習	78	
		心のしくみ	81	看 急 護 性 学 期	急性期看護論	83	
		診断学	93		急性期看護援助論	82	
		治療学総論	85		回復期看護援助論	83	
		病態と治療Ⅰ	84		急性期看護の動向と課題	2	
		病態と治療Ⅱ	85		急性期看護実習	83	
		病態と治療Ⅲ	83	看 慢 護 性 学 期	慢性期看護論	83	
		小児と疾患	83		慢性期看護援助論	82	
		公衆衛生学	90		終末期看護援助論	82	
		健康管理論	83		慢性期看護の動向と課題	未開講	
		保健統計学	83		慢性期看護実習	83	
		疫学	82	看 護 学 老 人	老人看護学総論	83	
		地域保健政策	79		老人の健康と看護	83	
		生命の科学と倫理	34		老人看護援助論	84	
		医療史	31		老人看護の動向と課題	未開講	
		社会保障と看護	3	精 神 看 護 学	精神看護学総論	83	
		心理学と心理的支援	30		精神の健康と看護	83	
		行動科学	17		精神看護援助論	83	
		保健行動論	4		精神看護の動向と課題	未開講	
		人間工学	未開講		精神看護実習	82	
		在宅医療	5	小 児 看 護 学	小児看護学総論	84	
		医療と経営	7		小児の健康と看護	83	
		助産学	15		小児看護援助論	83	
		助産診断論	15		小児看護の動向と課題	未開講	
					小児看護実習	82	
看 護 基 礎 科 目	基 礎 看 護 学	看護学総論	82	母 性 看 護 学	母性看護学総論	84	
		人間と看護	82		母性看護対象論	未開講	
		健康と看護	82		母性の健康と看護	84	
		環境と看護	81		母性看護援助論	83	
		看護研究方法論	84		母性看護の動向と課題	未開講	
		看護哲学と倫理	78		母性看護実習	83	
	看 護 援 助 学	生活と看護	82	助 産 看 護 学	助産看護学総論	8	
		生活援助論	81		助産看護診断論	8	
		看護過程論	84		助産技術論Ⅰ	8	
		援助関係論	81		助産技術論Ⅱ	8	
		フィジカルアセスメント	81		助産看護援助論	8	
		治療援助論	83		助産看護管理論	8	
					助産看護の動向と課題	8	
					助産看護実習Ⅰ	8	
					助産看護実習Ⅱ	8	

(その2)

(単位:人)

授 業 科 目			受講者数	授 業 科 目			受講者数
看護 臨床 科目	在宅看護学	在宅看護学総論	83	総合 科目	グローバル社会と看護Ⅰ	81	
		在宅看護対象論	83		グローバル社会と看護Ⅱ	3	
		在宅看護援助論	79		異文化理解看護フィールドワーク	3	
		在宅看護リエゾン論	未開講		看護地域フィールドワーク	43	
		在宅看護の動向と課題	3		看護学の動向と課題	8	
		在宅看護実習	79		看護セミナーⅠ	82	
	地域看護学	地域看護学総論	83		看護セミナーⅡ	3	
		地域の健康と看護	83		看護セミナーⅢ	2	
		地域看護援助論	83		看護セミナーⅣ	82	
		地域看護の動向と課題	未開講		看護セミナーⅤ	82	
		地域看護実習	75		臨床看護論Ⅰ(人間の自立とQOL)	14	
	保 学 健 校	学校保健	11		臨床看護論Ⅱ(家族と健康)	17	
		養護概説	15		臨床看護論Ⅲ(子どもの発達と健康)	38	
					臨床看護論Ⅳ(慢性の病と生活)	未開講	
総 合 科 目	看護研究	79	臨床看護論Ⅴ(健康と病気の探究)		5		
	看護と政策	79	臨床看護論Ⅵ(看護と倫理的課題)		9		
	がん看護論	83	母性・助産看護実践論		8		
	総合看護実習	78	精神看護実践論		3		
	総合看護実習Ⅰ	未開講	急性期看護実践論		10		
	総合看護実習Ⅱ	未開講	小児看護実践論		9		
	家族看護実習	未開講	地域看護実践論		4		
	看護実践能力開発実習	79	老人看護実践論		12		
	看護実践能力開発実習Ⅱ	未開講	看護実践論Ⅰ		未開講		
	バイオロジカルナースィング	10	看護実践論Ⅱ		未開講		
	治療と看護	1	看護実践論Ⅲ		未開講		
	災害と看護	56	看護実践論Ⅳ		未開講		
	災害看護実践論	4	医学と看護の統合		79		
					最新実践看護講座Ⅰ	3	
					最新実践看護講座Ⅱ	4	

○社会福祉学部 社会福祉学科

(単位:人)

授 業 科 目			受講者数	授 業 科 目			受講者数
基 本 科 目	福祉対象入門		71		チームアプローチ		9
	福祉援助入門		72		スーパービジョン		10
	社会福祉入門演習		71	地 域 ・ 国 際 福 祉 科 目	地域福祉論Ⅰ		77
	社会福祉基礎演習		70		地域福祉論Ⅱ		78
	心理学と心理的支援		72		地域福祉活動		8
	社会学と社会システム		71		国際福祉論		60
	社会福祉の原理と政策Ⅰ		71		コミュニティソーシャルワーク		40
	社会福祉の原理と政策Ⅱ		71		福祉NPO論		43
	社会福祉史		80		子育て支援論		未開講
	介護技術		17		虐待防止論		44
社 会 福 祉 制 度 科 目	社会保障論Ⅰ		71	支 社 援 会 科 目 帰	ケアマネジメント論		41
	社会保障論Ⅱ		70		ケアマネジメント演習		26
	公的扶助論		76		ケアプラン策定法		11
	障害者福祉論		74		就労支援サービス(～2020)		71
	児童・家庭福祉論		71		精神障害リハビリテーション論		19
	高齢者福祉論Ⅰ		70	精 神 保 健 福 祉 実 践 科 目	精神保健福祉援助演習(～2020)		22
	高齢者福祉論Ⅱ		75		精神保健福祉援助演習Ⅰ		10
	精神保健福祉の原理		27		精神保健福祉援助演習Ⅱ		未開講
	精神保健福祉制度論		14		精神保健福祉援助実習指導Ⅰ		11
	福祉行財政と福祉計画(～2020)		2		精神保健福祉援助実習指導Ⅱ		22
	福祉サービスの組織と経営		70		精神保健福祉援助実習Ⅰ		22
	権利擁護論		78		精神保健福祉援助実習Ⅱ		22
	更生保護制度		59	介 護 福 祉 理 解 科 目	介護の基本Ⅰ		16
	保健医療サービス		75		介護の基本Ⅱ		10
	女性福祉論		37		介護の基本Ⅲ		21
	医療福祉論		55		コミュニケーション技術		15
か ら だ と こ こ ろ の 理 解 科 目	医学概論		76		生活支援技術Ⅰ		16
	精神医学Ⅰ		13		生活支援技術Ⅱ		15
	精神医学Ⅱ		13		生活支援技術Ⅲ		10
	精神保健学Ⅰ		13		生活支援技術Ⅳ		10
	精神保健学Ⅱ		20		生活支援技術Ⅴ		21
	発達と老化の理解Ⅰ		16		介護過程Ⅰ		15
	発達と老化の理解Ⅱ		22		介護過程Ⅱ		10
	認知症の理解Ⅰ		14		介護過程Ⅲ		10
	認知症の理解Ⅱ		14		介護過程Ⅳ		20
	障害の理解Ⅰ		25	介 護 福 祉 実 践 科 目	介護総合演習Ⅰ		15
	障害の理解Ⅱ		27		介護総合演習Ⅱ		10
	こころとからだのしくみⅠ		19		介護総合演習Ⅲ		20
	こころとからだのしくみⅡ		17		介護総合演習Ⅳ		18
ソ ー シ ヤ ル ワ ー ク 基 礎 科 目	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ		70		介護実習Ⅰ		15
	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ		70		介護実習Ⅱ		10
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ		73		介護実習Ⅲ		20
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ		73		医療的ケアⅠ		20
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ		73		医療的ケアⅡ		18
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ		71	総 合 科 目	福祉研究法入門		75
	ソーシャルワークの理論と方法(精神)		10		社会福祉調査の基礎		67
	面接技法		64		社会福祉専門演習Ⅰ		69
	医療ソーシャルワーク論		46		社会福祉専門演習Ⅱ		70
ソ ー シ ヤ ル ワ ー ク 実 践 科 目	ソーシャルワーク演習Ⅰ		74		社会福祉専門演習Ⅲ		79
	ソーシャルワーク演習Ⅱ		74		社会福祉専門演習Ⅳ		81
	ソーシャルワーク演習Ⅲ		69				
	ソーシャルワーク演習Ⅳ		69				
	ソーシャルワーク演習Ⅴ		61				
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ		72				
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ		72				
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ		62				
	ソーシャルワーク実習Ⅰ		41				
	ソーシャルワーク実習Ⅱ		61				
	ソーシャルワーク実習Ⅲ		61				
	事例研究法		19				
	実践記録法		10				

○健康栄養学部 健康栄養学科

(単位:人)

授 業 科 目			受講者数	授 業 科 目			受講者数
科 基 目 礎	健康栄養学基礎		41	栄 養 教 育 論	栄養教育論Ⅰ		42
	健康栄養学応用		41		栄養教育論Ⅱ		43
社 会 ・ 環 境 と 健 康	地域健康論		42		栄養教育論Ⅲ		42
	介護論		42		栄養教育論実習Ⅰ		43
	食と介護		42		栄養教育論実習Ⅱ		42
	保健医療福祉論		43		学校栄養指導論Ⅰ		10
	地域医療論		15		学校栄養指導論Ⅱ		9
	公衆衛生学		43	臨 床 栄 養 学	臨床栄養学Ⅰ		42
	環境衛生学実習		42		臨床栄養学Ⅱ		43
人 体 の 構 造 と 機 能 及 び 疾 病 の 成 り 立 ち	健康情報論実習		41		臨床栄養学Ⅲ		43
	生化学Ⅰ		41		臨床実践栄養学		42
	生化学Ⅱ		41	栄 公 衆 養 学	臨床栄養学実習Ⅰ		43
	生化学実験		42		臨床栄養学実習Ⅱ		42
	人体の構造と機能Ⅰ		43		公衆栄養学Ⅰ		42
	人体の構造と機能Ⅱ		42	管 給 理 食 営 給 営 論 管 営	公衆栄養学Ⅱ		43
	臨床医科学		12		地域公衆栄養学実習		43
	疾病論Ⅰ		43		給食経営管理論		42
	疾病論Ⅱ		42	演 総 習 合	給食計画論		42
食 べ 物 と 健 康	運動生理学		42		給食経営管理実習Ⅰ		43
	生体科学実験・実習		42	臨 地 実 習	給食経営管理実習Ⅱ		43
	食品学		42		管理栄養士総合演習Ⅰ		43
	食品学実験Ⅰ		41	そ の 他	管理栄養士総合演習Ⅱ		43
	食品学実験Ⅱ		42		給食経営管理臨地実習		43
	食材学		41		臨床栄養学臨地実習Ⅰ		42
	食品の栄養素と機能		42		臨床栄養学臨地実習Ⅱ		42
	食品衛生学		42		地域公衆栄養学臨地実習		43
	食品衛生学実験		42	研 課 究 題	地域実践栄養学臨地実習		未開講
	フードシステム学		1		企業実習		未開講
	調理学		41		健康栄養フィールドワーク		42
	調理学実習Ⅰ		41	栄 基 礎	HACCP管理論		42
	調理学実習Ⅱ		41		卒業研究		38
	調理学実習Ⅲ		32	栄 養 学 応 用			
	調理科学実験		6				
栄 基 養 礎	基礎栄養学		41				
	基礎栄養学実験		42				
栄 養 学 応 用	応用栄養学Ⅰ		43				
	応用栄養学Ⅱ		42				
	応用栄養学実習		42				
	ライフステージ栄養学		42				

【学 部】

(3)教職に関する専門教育科目

(単位:人)

授 業 科 目		受講者数	授 業 科 目		受講者数
教職に関する専門教育科目	教育原理	36	教職に関する専門教育科目	教育実習Ⅰ	19
	教育基礎理論	23		教育実習Ⅱ	19
	教師論	88		養護実習	12
	教育社会学	59		学校栄養教育実習	15
	発達心理学	33		教職実践演習(中・高)	19
	教育心理学	40		教職実践演習(養護)	12
	特別支援教育概論	59		教職実践演習(栄養)	15
	教育課程論	62		国語科教育法Ⅰ	16
	道德教育論	63		国語科教育法Ⅱ	15
	特別活動論	36		国語科教育法Ⅲ	10
	教育の方法と技術及び総合的な学習の時間の指導法	54		国語科教育法Ⅳ	10
	情報通信技術を活用した教育の理論と方法	20		英語科教育法Ⅰ	4
	生徒指導の理論と方法及び特別活動の指導法	55		英語科教育法Ⅱ	4
	教育相談及びキャリア教育の理論と方法	63		英語科教育法Ⅲ	9
				英語科教育法Ⅳ	9

【 大 学 院 】

○看護学研究科看護学専攻（博士前期課程）

(その1)

(単位:人)

授 業 科 目			受講者数	授 業 科 目			受講者数
共 通 科 目	大 学 院 共 通 科 目	研究と倫理	0	慢 性 看 護 学 領 域	慢性看護論	未開講	
		教育学特論	2		慢性看護対象論	未開講	
		教育心理学特論	未開講		慢性看護方法論Ⅰ	未開講	
		ジェンダー論	7		慢性看護方法論Ⅱ	未開講	
		臨床倫理	3		慢性疾患診断治療学Ⅰ	未開講	
		グローバルヘルス論	1		慢性疾患診断治療学Ⅱ	未開講	
		ケア論	未開講		慢性看護学実践演習Ⅰ	未開講	
		看護マネジメント論	3		慢性看護学実践演習Ⅱ	未開講	
		看護理論と実践	7		慢性看護学実践演習Ⅲ	未開講	
	専 攻 共 通 科 目	看護学基盤論	3		慢性看護学実践演習Ⅳ	未開講	
		看護研究と実践	7		慢性看護学実践演習Ⅴ	未開講	
		看護倫理	7		ク リ テ ィ カ ル ケ ア 看 護 学 領 域	クリティカルケア看護論Ⅰ	未開講
		看護サービス管理論	5			クリティカルケア看護論Ⅱ	未開講
		看護コンサルテーション論	4			クリティカルケア看護方法論Ⅰ	未開講
		フィジカルアセスメント特論	4			クリティカルケア看護方法論Ⅱ	未開講
		病態生理学	4	クリティカルケア看護方法論Ⅲ		未開講	
		臨床薬理学	4	クリティカルケア看護方法論Ⅳ		未開講	
		こころの発達	3	クリティカルケア診断治療学Ⅰ		未開講	
		データ分析方法論Ⅰ	7	クリティカルケア診断治療学Ⅱ		未開講	
		看護教育論Ⅰ	5	クリティカルケア看護学実践演習Ⅰ		未開講	
		看護教育論Ⅱ	9	クリティカルケア看護学実践演習Ⅱ		未開講	
		疫学研究方法論	8	クリティカルケア看護学実践演習Ⅲ		未開講	
		保健医療政策と経済Ⅰ	8	クリティカルケア看護学実践演習Ⅳ		未開講	
		保健医療政策と経済Ⅱ	8	クリティカルケア看護学実践演習Ⅴ		未開講	
		看護学の動向と展望	7	母 性 看 護 学 領 域	女性健康看護論	未開講	
		最新専門看護実践講座Ⅰ	3		女性健康支援論	未開講	
		最新専門看護実践講座Ⅱ	6		子育て包括ケアシステム論	未開講	
		インディペンデントスタディ	0		女性の健康危機マネジメント論	未開講	
		共 創 看 護 学 領 域	看護理論と研究Ⅰ	3	母性看護フィールド演習Ⅰ	未開講	
	看護理論と研究Ⅱ		3	母性看護フィールド演習Ⅱ	1		
	学際的研究方法		2	小 児 看 護 学 領 域	小児看護論	2	
	データ分析方法論Ⅱ		2		小児看護対象論	2	
	看護学英語		2		小児看護方法論Ⅰ	2	
	共創看護学セミナー		1		小児看護方法論Ⅱ	1	
	バイオメトリクス看護学演習		0		小児診断治療学Ⅰ	未開講	
	がん看護論	0	小児診断治療学Ⅱ		3		
	緩和ケア特論	0	小児看護学実践演習Ⅰ		2		
が ん 看 護 学 領 域	がん看護方法論Ⅰ	0	小児看護学実践演習Ⅱ		1		
	がん看護方法論Ⅱ	2	小児看護学実践演習Ⅲ		1		
	がん看護方法論Ⅲ	2	小児看護学実践演習Ⅳ		2		
	がん病態生理学	0	小児看護学実践演習Ⅴ	1			
	がん診断治療学	未開講					
	がん薬理学	2					
	がん看護学実践演習Ⅰ	0					
	がん看護学実践演習Ⅱ	2					
	がん看護学実践演習Ⅲ	3					
	がん看護学実践演習Ⅳ	2					
	がん看護学実践演習Ⅴ	2					

(その2)

(単位:人)

授 業 科 目			受講者数	授 業 科 目			受講者数
領域専門科目	老人看護学領域	老人看護論	未開講	地域看護学領域	地域看護論	未開講	
		老人看護対象論	未開講		地域ケアシステム論	未開講	
		老人看護方法論	未開講		地域看護展開論	未開講	
		老人ケアシステム論	未開講		地域フィールド演習Ⅰ	未開講	
		老人看護展開論Ⅰ	未開講		地域フィールド演習Ⅱ	未開講	
		老人看護展開論Ⅱ	未開講	災害・国際看護学領域	災害看護論	1	
		老年病診断治療学Ⅰ	未開講		グローバル社会看護論	1	
		老年病診断治療学Ⅱ	未開講		災害・国際看護方法論	1	
		老人看護学実践演習Ⅰ	未開講		感染症看護セミナー	1	
		老人看護学実践演習Ⅱ	未開講		環境衛生看護セミナー	0	
		老人看護学実践演習Ⅲ	未開講		共生社会看護セミナー	未開講	
		老人看護学実践演習Ⅳ	未開講		人道支援看護セミナー	1	
		老人看護学実践演習Ⅴ	未開講		災害看護管理セミナー	1	
	精神看護学領域	精神看護論	未開講		災害看護活動論(準備期)	4	
		精神看護対象論	未開講		環境防災学	2	
		精神看護方法論Ⅰ	未開講	看護管理学領域	看護管理論	1	
		精神看護方法論Ⅱ	1		システム経営管理論	1	
		精神看護展開論Ⅰ	0		看護管理展開論	1	
		精神看護展開論Ⅱ	0		看護管理の動向と展望	1	
		精神看護展開論Ⅲ	未開講		看護管理学実践演習Ⅰ	0	
		精神看護展開論Ⅳ	1		看護管理学実践演習Ⅱ	0	
		精神診断治療学Ⅰ	1		看護管理学実践演習Ⅲ	0	
		精神診断治療学Ⅱ	未開講	臨床看護学領域	精神看護ケア研究	1	
		精神看護学実践演習Ⅰ	未開講		老人看護ケア研究	3	
		精神看護学実践演習Ⅱ	未開講		がん看護ケア研究	0	
		精神看護学実践演習Ⅲ	1		小児看護ケア研究	1	
		精神看護学実践演習Ⅳ	1		慢性看護ケア研究	3	
		精神看護学実践演習Ⅴ	1		クリティカルケア研究	0	
	家族看護学領域	家族看護論	1		臨床看護管理研究	2	
		家族看護対象論	1	地域保健学領域	臨床看護教育研究	0	
		家族看護方法論Ⅰ	7		母性・助産看護ケア研究	1	
		家族看護方法論Ⅱ	4		地域ケア研究	0	
		家族看護実践論Ⅰ	0		学校保健研究	1	
		家族看護実践論Ⅱ	0		家族ケア研究	0	
		家族療法	未開講		在宅ケア研究	0	
		家族ケアの開発	0	研究支援科目	保健学研究	0	
		家族看護学実践演習Ⅰ	1		災害・国際看護ケア研究	0	
		家族看護学実践演習Ⅱ	1		看護課題研究	6	
		家族看護学実践演習Ⅲ	0		看護学研究方法Ⅰ	3	
		家族看護学実践演習Ⅳ	0		看護学研究方法Ⅱ	3	
		家族看護学実践演習Ⅴ	0		看護教育学専門演習	0	
	在宅看護学領域	在宅看護論	1		看護教育学研究方法Ⅰ	0	
		在宅看護方法論Ⅰ	1		看護教育学研究方法Ⅱ	0	
		在宅看護方法論Ⅱ	1		臨床看護学専門演習	2	
		在宅看護方法論Ⅲ	1		臨床看護学研究方法Ⅰ	2	
		在宅ケアシステム論	1		臨床看護学研究方法Ⅱ	1	
		在宅看護展開論Ⅰ	1		地域保健学専門演習	1	
		在宅看護展開論Ⅱ	1		地域保健学研究方法Ⅰ	2	
		在宅療養診断治療学Ⅰ	未開講		地域保健学研究方法Ⅱ	2	
		在宅療養診断治療学Ⅱ	2				
		在宅リエゾン看護論	6				
		在宅リエゾン看護演習	4				
		在宅看護学実践演習Ⅰ	1				
		在宅看護学実践演習Ⅱ	1				
		在宅看護学実践演習Ⅲ	1				
		在宅看護学実践演習Ⅳ	1				
		在宅看護学実践演習Ⅴ	1				

○看護学研究科看護学専攻（博士後期課程）

(単位:人)

授 業 科 目		受講者数	授 業 科 目		受講者数
専攻共通科目	理論看護学Ⅰ	5	専攻専門科目	精神看護学Ⅰ	0
	理論看護学Ⅱ	5		精神看護学Ⅱ	0
	看護学研究方法Ⅰ	5		家族看護学Ⅰ	2
	看護学研究方法Ⅱ	5		家族看護学Ⅱ	0
	看護倫理学	5		在宅看護学Ⅰ	0
	イノベーション看護学	5		在宅看護学Ⅱ	0
	国際看護学	4		地域看護学Ⅰ	0
	医学研究方法論	0		地域看護学Ⅱ	0
	インディペンデントスタディ	0		学校保健学Ⅰ	1
プロフェッショナルライティング	0	学校保健学Ⅱ	0		
専攻専門科目	共創看護学Ⅰ	1	科 文 研 目 援 究	災害・国際看護学Ⅰ	0
	共創看護学Ⅱ	1		災害・国際看護学Ⅱ	0
	がん看護学Ⅰ	1		看護病態生理学Ⅰ	0
	がん看護学Ⅱ	2		看護病態生理学Ⅱ	1
	成人看護学Ⅰ	0		看護経営管理学Ⅰ	0
	成人看護学Ⅱ	0		看護経営管理学Ⅱ	1
	小児看護学Ⅰ	0		看護学特別研究Ⅰ	2
	小児看護学Ⅱ	0		看護学特別研究Ⅱ	10
	老人看護学Ⅰ	0		看護学特別研究Ⅲ	5
	老人看護学Ⅱ	0			

○看護学研究科共同災害看護学専攻（博士課程）

(単位:人)

授 業 科 目			受 講 者 数	授 業 科 目		受 講 者 数
災害看護学の基盤を支える科目群	看護研究	未開講	イン デ イ ペ ン デ ン ト 学 修 科目群	災害看護ゼミナールA	0	
	理論看護学	未開講		災害看護ゼミナールB	0	
	危機管理論	未開講		災害看護ゼミナールC	0	
	環境防災学Ⅰ	未開講		災害看護ゼミナールD	0	
	環境防災学Ⅱ	0		災害看護ゼミナールE	0	
	グローバルヘルス	0		インディペンデントスタディⅠ	0	
	災害法制度と政策論	未開講		インディペンデントスタディⅡ	0	
	専門職連携実践論	0		インディペンデントスタディⅢ	0	
	災害時専門職連携演習(災害IP演習)	0		インディペンデントスタディⅣ	0	
	災害医療学	未開講		インディペンデントスタディⅤ	0	
	災害心理学	未開講	災害看護学 研究支援 科目群	災害看護研究ゼミナール	未開講	
	災害と文化	0		実践課題研究	0	
	災害社会福祉学	未開講		災害看護研究デバロップメント	1	
	Professional writing	0		博士論文	11(2)	
Proposal writing (Research proposal writing skill)	未開講					
Program writing (Program Proposal writing skill)	未開講					
災害看護学の専門科目群	災害看護学総論					未開講
	災害看護活動論Ⅰ(急性期)					未開講
	災害看護活動論Ⅱ(亜急性期)					未開講
	災害看護活動論Ⅲ(復旧・復興)					未開講
	災害看護活動論Ⅳ(備え)					未開講
	災害看護グローバルコーディネーション論					0
	災害看護リーダーシップ・管理論					0
	災害看護倫理					0
	災害看護理論構築					0
	インターンシップⅠ					2
	インターンシップⅡ					0

※カッコ内は本学の受講者数

○人間生活学研究科人間生活学専攻（博士前期課程）

（単位：人）

授 業 科 目			受講者数	授 業 科 目			受講者数		
共通科目	大学院共通科目	研究と倫理	9	社会福祉学領域科目	高齢	介護福祉論	0		
		教育学特論	6			高齢者福祉論	未開講		
		教育心理学特論	未開講		障害	障害者福祉論	2		
		ジェンダー論	4			精神保健福祉論	未開講		
		臨床倫理	0		児童・家庭	児童支援福祉論	未開講		
		グローバルヘルス論	3			家族支援福祉論	5		
		ケア論	0		地域文化	地域文化論Ⅰ	2		
		看護マネジメント論	0			地域文化論Ⅱ	未開講		
	人間生活学研究科	研究方法論Ⅰ	5	地域文化論Ⅲ		3			
		研究方法論Ⅱ	8	観光文化論Ⅰ		2			
		研究方法論Ⅲ	4	観光文化論Ⅱ		未開講			
		データ解析論	5	観光文化論Ⅲ		3			
		地域スポーツ論	5	日本文化	日本文化論Ⅰ	未開講			
		健康リハビリテーション論	未開講		日本文化論Ⅱ	4			
福祉マネジメント論	2	日本語文化論	未開講						
栄養・生活学領域科目	食物科学	食品生化学特論	未開講		文化学領域科目	文学Ⅰ	文学Ⅰ	1	
		食品製造学特論	3				文学Ⅱ	文学Ⅱ	未開講
		食物科学論	未開講					文学Ⅲ	2
		食物科学実践演習	3	英語文化			英語文化論Ⅰ	1	
	人間栄養学	栄養学特論	1			英語文化論Ⅱ	4		
		臨床栄養学特論	未開講			英語文化論Ⅲ	未開講		
		健康動態論	3		英語言語文化論特論Ⅰ	0			
		栄養疫学論	未開講		英語言語文化論特論Ⅱ	未開講			
	生活栄養学・	栄養・生活特論Ⅰ	1		科 指 研 目 導 究	国際日本学	国際日本学	未開講	
		栄養・生活特論Ⅱ	1	栄養・生活学課題研究演習			1		
		栄養・生活統計論	1	社会福祉学課題研究演習			4		
		環境生態論	未開講	文化学課題研究演習	2				
		災害栄養フード・アセスメント論	2						
	社会福祉学領域科目	福祉専門基礎	社会福祉原論					未開講	
福祉リハビリテーション論			1						
ソーシャルワーク論			5						
社会保障論			未開講						
福祉行財政論			2						
会・地域・文化・多文化社会		地域福祉論	6						
		地域福祉政策論	未開講						
		国際福祉論	未開講						
		多文化福祉論	4						

○人間生活学研究科人間生活学専攻（博士後期課程）

（単位：人）

授 業 科 目			受講者数	授 業 科 目			受講者数
科 共 目 通		研究デザイン	未開講	専 門 科 目	領 域 科 目	地域文化学Ⅰ	1
		研究倫理	0			地域文化学Ⅱ	0
専 門 科 目	領 域 科 目	地球環境解析学	0			言語文化学Ⅰ	0
		環境生態学	0			言語文化学Ⅱ	0
		人間栄養学	0	研究指導科目		栄養・生活学特別研究Ⅰ	1
		食品機能学	1			栄養・生活学特別研究Ⅱ	0
		健康動態学	0			栄養・生活学特別研究Ⅲ	2
	領 域 科 目	介護福祉学	0			社会福祉学特別研究Ⅰ	0
		障害者福祉学	0			社会福祉学特別研究Ⅱ	1
		児童・家族福祉学	0			社会福祉学特別研究Ⅲ	0
		地域ソーシャルワーク学	0			文化学特別研究Ⅰ	0
		国際福祉政策学	0			文化学特別研究Ⅱ	0
		福祉リハビリテーション学	0			文化学特別研究Ⅲ	0

※「未開講」・・・隔年開講などにより年度当初から未開講科目であったもの

※「0」・・・年度当初開講予定科目で、院生がいないなどの理由で開講されなかったもの

3 科目等履修生・特別聴講学生の状況

(1)科目等履修生

(単位:人)

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
教育実習Ⅰ	1	教職実践演習(中・高)	1
教育実習Ⅱ	1	特別支援教育概論	1
英語科教育法Ⅲ	1	観光産業論Ⅰ	1
英語科教育法Ⅳ	1		

(2)特別聴講学生

(単位:人)

授 業 科 目	受講者数	授 業 科 目	受講者数
基礎演習	2	災害と法	2
中国語基礎Ⅰ	2	英語コミュニケーションIC	2
日本語Ⅰ	2	英語コミュニケーションⅡ基礎プレゼンテーション	2
英語文法論	2	環境と健康と安全	2
英文化・文学史	2	健康スポーツ科学Ⅰ	2
異文化理解Ⅰ	2	英語コミュニケーションⅡ応用プレゼンテーション	2
中国語基礎Ⅱ	2	健康スポーツ科学Ⅱ	2
日本語Ⅱ	2	日本思想史	1
英語学概論	2	英語コミュニケーションID	1
英文化・文学論	2	災害看護活動論(準備期)	1

4 教員免許状取得状況・国家資格等合格状況

(1) 教員免許状取得状況(過去3年間分)

(単位:人)

学部・学科	区 分		令和3年度	令和4年度	令和5年度
文化学部 文化学科	免許状取得者数	実人数	14	15	18
		中一種免(英語)	9	5	8
		高一種免(英語)	9	5	10
		中一種免(国語)	5	10	8
		高一種免(国語)	5	10	10
	教員就職者数		7	7	15
看護学部 看護学科	免許状取得者数	実人数	9	13	12
		一種免(養護)	9	13	12
	教員就職者数		5	6	5
健康栄養学部 健康栄養学科	免許状取得者数	実人数	9	4	15
		一種免(栄養)	9	4	15
	教員就職者数		3	0	2
看護学研究科 博士前期課程	免許状取得者数	実人数	1	1	1
		高専修免(看護)	0	0	0
		養教専修免	1	1	1
人間生活学研究科 博士前期課程	免許状取得者数	実人数	1	0	
		中専修免(英語)	1	0	
		高専修免(英語)	1	0	
		栄教専修免	0	0	
合 計	免許状取得者数(実人数)		34	33	46
	教員就職者数		15	13	22

※教員就職者数は正規採用者と臨時的任用者との合計

(2) 国家試験合格状況

(単位:人)

国家資格	受 験 日	区 分	受 験 者 数	合 格 者 数	合 格 率
看 護 師	令和6年2月11日	新 卒	79	79	100.0%
		既 卒	0	0	
保 健 師	令和6年2月9日	新 卒	70	70	100.0%
		既 卒	0	0	
助 産 師	令和6年2月8日	新 卒	8	8	100.0%
		既 卒	0	0	
社会福祉士	令和6年2月4日	新 卒	72	68	94.4%
		既 卒	22	17	77.3%
精神保健福祉士	令和6年2月3日 令和6年2月4日	新 卒	22	22	100.0%
		既 卒	0	0	
介護福祉士	令和6年1月28日	新 卒	19	19	100.0%
		既 卒	0	0	
管理栄養士	令和6年3月3日	新 卒	38	27	71.1%
		既 卒	0	0	

(3) 専門看護師・認定看護管理者合格状況

(単位:人)

専門看護分野名	合格者数
がん看護	1
慢性疾患看護	1
急性・重症患者看護	1
小児看護	1
精神看護	3
家族支援看護	2
在宅看護	1
老人看護	1
認定看護管理者	0

5 学位等及び大学賞・学長賞等の授与状況

(1)学位等授与状況

○博 士 (単位:人)

研 究 科 名	博 士	
	令和5年度	累 計
看護学研究科(博士後期課程)	5	43
看護学研究科(博士課程)	0	7
人間生活学研究科(博士後期課程)	2	15
健康生活科学研究科健康生活科学専攻(博士後期課程)		50
合 計	7	115

○修 士 (単位:人)

研 究 科 名	修 士	
	令和5年度	累 計
看護学研究科(博士前期課程)	13	342
人間生活学研究科(博士前期課程)	6	200
合 計	19	542

【学位授与者一覧】

○博 士

授与年月日	学位の種類	氏 名	論 文 名
令和5年9月25日	博士(看護学)	竹内 千夏	回復期にある高齢脳血管疾患患者への病棟看護師によるシームレスケアに関する研究
令和5年9月25日	博士(看護学)	葛島 慎吾	精神障害者のセルフコンパッションを高める看護実践
令和6年3月19日	博士(看護学)	染谷 奈々子	医療的ケアを必要とする子どもと家族へのケアとキュアを融合した小児看護専門看護師の実践
令和6年3月19日	博士(看護学)	岡西 幸恵	再発・転移がんサバイバーの療養生活における調和に関する研究
令和6年3月19日	博士(看護学)	松本 祐佳里	小児がんの子どもへの看護師によるトラウマインフォームドケア
令和6年3月19日	博士(生活科学)	井治 賢希	Acylated steryl- β -glucosideの高脂肪高ショ糖食投与肥満マウスにおける体脂肪量、及び脂質代謝に及ぼす影響とメカニズムの解明
令和6年3月19日	博士(生活科学)	生川 卓弘	食用カンナ葉含有成分の化学的・栄養学的特性 ―発酵処理に伴う変化に着目して―

○修 士

授与年月日	学位の種類	氏 名	論 文 名
令和6年3月19日	修士(看護学)	田邊 佳香	災害により避難した人の避難先地域における生活の再構築
令和6年3月19日	修士(看護学)	村岡 千紘	壮年期にある終末期がん患者の希望を支える看護ケア
令和6年3月19日	修士(看護学)	井東 恵	災害時避難行動の意思決定と高齢者の健康状態―南海トラフ地震・津波災害によって孤立が想定される地域に居住する高齢者に焦点をあてて―
令和6年3月19日	修士(看護学)	信吉 香織	災害時における糖尿病患者のセルフケア

○修 士（続き）

授与年月日	学位の種類	氏 名	論 文 名
令和6年3月19日	修士(看護学)	坂口 結映	育児期における母親の孤独感の経験
令和6年3月19日	修士(看護学)	扇谷 静香	治療抵抗性心不全をもつ後期高齢者への訪問看護師による緩和ケア
令和6年3月19日	修士(看護学)	阪本 祐子	ACPにおけるがん患者の対処
令和6年3月19日	修士(看護学)	西嶋 恭子	医療的ケアが必要となった重症心身障害児の両親が行う意思決定
令和6年3月19日	修士(看護学)	福添 純子	地域移行期の精神障害をもつ患者に対するShared decision making
令和6年3月19日	修士(看護学)	古田 さより	看護管理者の異動経験におけるトランジション
令和6年3月19日	修士(看護学)	三賀山 美紀子	がん患者の高次脳機能障害への看護師の気づきと実践
令和6年3月19日	修士(看護学)	宮地 佐和子	入院前における看護師の働きかけが患者参加に及ぼす影響に関する研究－医療安全をSafety-Ⅱの視点で捉えて－
令和6年3月19日	修士(看護学)	森岡 理恵	不登校状態にある青年期中期の子をもつ親のHelp-seeking behavior
令和5年9月25日	修士(社会福祉学)	吉良 正輝	脳卒中の後遺症である記憶障害を有する者の生活の不自由を改善させるreminder
令和6年3月19日	修士(社会福祉学)	澤田 日登美	里親家庭で育つ子どもの自立支援についての研究－18歳前後の社会的養護のありかた－
令和6年3月19日	修士(社会福祉学)	内田 智子	地域の実情に応じた介護予防事業の実施状況について－高知県内7市町村のインタビュー調査からみえる介護予防およびフレイル予防の取り組み－
令和6年3月19日	修士(学術)	浦尻 紗希	土佐における民俗語彙の翻訳 民俗語彙を異言語に翻訳する際の工夫に関する研究
令和6年3月19日	修士(社会福祉学)	加村 健太	MSWが業務上で意識していることは何か－経験5年以上の10名のインタビュー調査より－
令和6年3月19日	修士(生活科学)	別役 由香	大学生・専門学校生を対象とした食塩・栄養素摂取量の把握のための食事調査票の作成

(2)「地域共生推進士」認定書授与状況

授与年月日	称 号	授与者人数(人)	部 局 内 訳
令和6年3月19日	地域共生推進士	22	文化学部4名、看護学部14名、社会福祉学部4名

(3)日本語教員授与状況

授与年月日	称 号	授与者人数(人)
令和6年3月19日	日本語教員	6

(4)履修証明書授与状況

授与年月日	称 号	授与者人数(人)
－	履修証明書	－

※令和6年度は開講せず

(5)大学賞・学長賞授与状況

【大学賞】

学部・研究科	学科・専攻	学年	受賞者数	功績
文化学部	文化学科	4	1	本学および台湾文藻外語大学において優れた学業成績を収めた。
人間生活学研究科	人間生活学専攻 博士後期課程	3	1	研究に真摯に取り組み、新たな知識の発見と社会への貢献があった。

【学長奨励賞】

学部・研究科	学科・専攻	学年	氏名	功績
文化学部	文化学科	4	内田 実里 川原 千怜 松田 萌日	各学部から、大学における学業成績が特に優れていると認められ、かつ、他の学生の模範となる学生を推薦いただき、学生のみならずにはそれぞれの学業への取組姿勢や大学の学びを通じて描く将来像などを改めて聞き取りし、選考を行った。 令和2年度に創設された賞で今年度は、文化学部9名、看護学部6名、社会福祉学部6名、健康栄養学部3名、計24名の学生が受賞した。
		3	石川 桃帆 芝 杏奈 西尾 帆乃夏	
		2	空岡 真理奈 松田 鈴 千頭 紗綾	
看護学部	看護学科	4	多田 帆乃夏 中塔 乙紀	
		3	繁田 佳奈 三原 千廣	
		2	秋山 優香 遠藤 菜央	
社会福祉学部	社会福祉学科	4	大熨 真 名賀石 真衣	
		3	小笠原 杏樹 東谷 柚香	
		2	植田 愛唯 森岡 ふみ	
健康栄養学部	健康栄養学科	4	伊藤 志音里	
		3	橋本 紗希	
		2	宇野 奈津子	

【学長賞】

団体名(人数)	功績	学部	氏名
オーテピアンズ (2名)	本学生たちは、オーテピア高知図書館と協働し、高知県の地域の人々の本への関心の向上を図る学生グループとして活動した。近年では、通常活動に加え、読み聞かせを収録した動画の作成や他団体と共同でイベントを開催、そして全国高等学校ビブリオバトル高知県大会の運営に関わってきた。その結果、書籍の貸出増加やオーテピア図書館が管理するSNSのフォロワー数増加に寄与した。	文化学部	岡田 美月 河本 碧
健援隊 (2名)	本学生たちは、本学が行っている立志社中の事業において、看護学の専門知識を分かりやすく地域の方に伝え、知識の普及と健康文化を醸成することを目的とした団体である『健援隊』の活動を4年間継続して行った。特筆すべき活動は、コロナ感染症拡大においても、活動に様々な工夫を凝らし、健康管理ツールや災害時の生活マップ、子ども向けの教育活動などを行った。チーム運営を退いた現在も、後輩の相談役として、また学術集会等における活動紹介などで団体の活動を支えた。	看護学部	三好 実玖 武井 琉宇
UOK手話サークル (4名)	本学生たちは、1回生時に「UOK手話サークル」を立ち上げ、コロナ感染症拡大に伴って活動に制限を受ける中、手話を起点とした幅広い活動を展開した。特筆すべき活動として、「手話」を基盤にした聴覚障がい者への理解をつなぐ活動と「手話×災害」があげられ、その活動の拡がりは、看護学部だけでなく新たに立志社中として学内外に活動を広げ、映画上映会及びトークショーやイベント・学術集会等において発信を行った。	看護学部	徳永 旭 萩野 遥 福田 菜々子 藤原 萌衣
イケあい地域災害学生 ボランティアセンター (3名)	本学生たちは、1回生時に「UOK手話サークル」を立ち上げ、コロナ感染症拡大に伴って活動に制限を受ける中、手話を起点とした幅広い活動を展開した。特筆すべき活動として、「手話」を基盤にした聴覚障がい者への理解をつなぐ活動と「手話×災害」があげられ、その活動の拡がりは、看護学部だけでなく新たに立志社中として学内外に活動を広げ、映画上映会及びトークショーやイベント・学術集会等において発信を行った。	看護学部	福田 菜々子
		社会福祉学部	木村 愛海 中川 怜奈

団体名(人数)	功績	学部	氏名
高知県立大学 災害看護学生チーム SIT (3名)	本学生たちは、学生が主体となって災害医療を学ぶことを目的に結成された学生団体『高知県立大学災害看護学生チームSIT』の幹部として、精力的に活動に取り組んできた。 特筆すべき活動として、災害医療訓練への模擬患者としての参加、大学祭の災害謎解きゲームのコーナー主催、四国の学生対象の災害医療のワークショップ企画運営、第24回日本災害看護学会での「学生が取り組む防災啓発活動」の発表が挙げられる。なお、代表の石津は、これまで医学部の学生が歴任していた日本災害医学会学生部会DMASの代表も務め、SITの活動を本学だけでなく、全国の学生をつなぐ役割へと広げてきた。	看護学部	石津 舞桜 岡 瑞恵 徳永 旭
Pシスターズ (7名)	本学生は、持続可能な地域づくりを目指した活動を行う学生団体「Pシスターズ」において、地域の課題解決に向けて住民と共に考え、若い世代の感性と行動力を生かして、提案、実践してきた。 特筆すべき活動として、三原村では学生オリジナルの健康体操の普及やPR動画の作成、防災クイズゲームを実施、安芸市東川地区では、担い手不足で文化の継承が危ぶまれていた獅子舞獅子や手飼いの役を担い、高知市三里地区では、高齢者の生活状況や生活課題などについて訪問聞き取り調査をおこない、コロナ禍の下での孤立化に対応する交流活動に取り組んだ。	社会福祉学部	氏部 陽 川上 遼子 花岡 咲良 松木 優斗 森澤 はるの 山川 葵 山口 愛海
個人による顕著な表彰	本学生は、介護福祉士をめざして介護コースに所属し、高齢者の介護や家族の支援等について知識や技術を身に付けるとともに、高齢者の施設で実習を行い、介護やコミュニケーションについて実践を積んでいる。 特筆すべき活動として、本学生はアルバイト先である書店において、これまで学んだ知識を活かし、9月の世界アルツハイマーデーに合わせ、「認知症本フェア」を企画・実施、その結果、認知症にかんする書籍の売り上げが伸び、この取り組みは令和5年9月21日の高知新聞にも掲載された。	社会福祉学部	小笠原 杏樹
室戸ボランティアリーダー	本学生は、学生団体『室戸ボランティアリーダー』のメンバーとして、4年間小学生の自然体験活動のサポートや各種講習、自主企画を行った。 特筆すべき活動として、3回生時、サークル代表を担い、教育事業においては、AD(アシスタントディレクター)として職員とサークルメンバーの間の連携を取る役を引き受け、職員に代わって事業を運営を行った。また、4回生時には、教員採用試験で忙しい中、時間をやりくりして「くろしお祭り」という国立室戸青少年自然の家で行われるお祭りでのブースの企画運営を行った。1～2回生時においても、コロナ禍で活動がままならない中、リーダートレーニングで所属メンバーの技量を上げるための活動を積極的に行った。	健康栄養学部	矢野 花音

団体名(人数)	功績	学部	氏名
水泳部	本学生は、学生団体『水泳部』のメンバーとして、4年間活動を行った。 特筆すべきこととしては、大会における高い成績と3回生より担った代表者としての活動があげられる。西日本コメディカル学生水泳競技大会では、200m個人メドレーにて優勝を果たすなど、その他大会でも高い実績をあげた。また、代表者としての活動としては、1～3回生時、コロナウイルス感染症の影響によって大会が開催されない中、部員の指導や練習メニューの考案など、部の活動を活発化させるための活動を積極的に行った。	健康栄養学部	奥田 友菜

(6)サーティフィケーション授与状況

協定校	氏名	内容	招聘者
エルムズカレッジ	Charlotte Michaud Hailey Gudrian Natalie Pasko Ruth Tucker	2023年度エルムズカレッジ短期プログラム 2023年5月27日～6月9日	高知県立大学 (国際交流センター)
木浦大学校	Yun Hye Yeon Kim Mae Hyun Kim Tae Hee Lim Ye Won Hong Ji Sung	2023年度冬期日本語・日本文化プログラム 2024年1月24日～2月1日	高知県立大学 (国際交流センター)
文藻外語大学	曾晨瑄 洪嘉均	2023年度交換留学生	高知県立大学 (国際交流センター)
文藻外語大学	賴柏霖 吳珮辰	中国語教育実習 2023年10月2日～2024年3月8日	高知県立大学 (文化学部)

6 SD・FD活動実施状況

(1)全学SD・FD

区 分	内 容	講師・担当者	年月日	参加者数 (人)	主 催	共 催
S D	高知県立大学連続講座 地域共生社会を支援する 第1回 基調講演「自然に健康になれるまちづくり」 シンポジウム「産官学民連携による健康まちづくり」	千葉大学予防医学センター 社会予防医学研究部門 教授 近藤 克則	令和5年12月15日	101	高知県立大学	
	高知県立大学連続講座 地域共生社会を支援する 第2回 基調講演「社会的処方:全人的ケアを進めるための地域連携の仕組みづくりの現状と展望」	京都大学大学院医学研究科・社会健康医学系専攻・国際保健学講座・社会疫学・教授 近藤 尚己	令和6年1月23日	103	高知県立大学	
	高知県立大学連続講座 地域共生社会を支援する 第3回 基調講演「社会的処方:まちとのつながりで人が元気になる方法」 シンポジウム「市民がつながる地域共生社会」	川崎市立立井田病院・医師 一般社団法人プラスケア代表理事 西 智弘	令和6年3月16日	144	高知県立大学	
F D	学生のメンタルヘルスケアと修学支援	①荻 林太郎(教務課 課長) ②漆畑 愛弓 (学生・就職支援課 主幹) ③保志場 由紀子 (学生・就職支援課 主任) ④野瀬 貞暁 (健康管理センター 契約職員)	令和5年12月25日	60	高知県立大学 FD委員会	学生委員会
	大学における学修ポートフォリオの考え方とその運用のあり方	新目 真紀(職業能力開発総合大学校 能力開発院 教授)	令和6年3月6日	76	高知県立大学 FD委員会	

(2)部局別SD・FD

部 署	内 容	講師・担当者	年月日	参加者数 (人)	主 催	共 催
文化学部	「基礎演習」および新1回生の状況	「基礎演習」担当教員9名	令和5年7月24日	21	学部FD委員会	
看護学部	専門領域における教育内容の実際 ～教育評価や高次リテラシーを中心に～	慢性期看護学 在宅看護学	令和5年6月21日	34	看護学部FD委員会	
	お互いを尊重したアサーティブなコミュニケーション	ハラスメント防止コンサルタント 今岡 まゆみ 先生	令和5年7月1日	5	高知看護教育研究会	
	国際学会での研究発表	立木 隆広(看護学部 准教授)	令和5年8月30日	14	看護学部FD委員会	
	専門領域における教育内容の実際 ～教育評価や高次リテラシーを中心に～	母性看護学領域 小児看護学領域	令和5年9月27日	33	看護学部FD委員会	
	専門領域における教育内容の実際 ～教育評価や高次リテラシーを中心に～	総合看護学領域 看護管理看護学領域	令和5年10月25日	38	看護学部FD委員会	
	臨床判断モデルを活用した臨床判断能力の育成	聖路加国際大学 看護学部 三浦 友里子 先生	令和5年12月17日	6	高知看護教育研究会	
	学生のメンタルヘルスケアと修学支援	学生・就職支援課、教務課、 健康管理センター職員	令和5年12月25日	22	全学FD委員会	
	看護を語る会	看護学部教員	令和6年3月5日	32	看護学部FD委員会	
	教育評価(ルーブリックの洗練化)とカリキュラムマップに沿った科目間の連携について	看護学部教員	令和6年3月5日	26	看護学部FD委員会	

部 署	内 容	講師・担当者	年月日	参加者数 (人)	主 催	共 催
社会福祉学部	認知症の私から見える社会	丹野 智文 氏	令和5年5月10日	230	社会福祉学部 FD委員会	
	研究の姿勢を育む、成果を共に作っていく	矢吹 知之 (社会福祉学部 准教授)	令和5年5月22日	18	社会福祉学部 FD委員会	
	日本の精神医療は特殊である	野田 正彰 氏 (精神病理学者・作家)	令和5年6月12日	235	社会福祉学部 キャリア支援委員会	社会福祉学部 FD委員会
	精神障害者の社会的入院から社会正義を問う	古屋 龍太 (日本社会事業大学 名誉教授)	令和5年6月16日	50	社会福祉学部 FD委員会	
	英文レビュー論文の作成の仕方	横井 輝夫(社会福祉学部 教授)	令和5年8月2日	16	社会福祉学部 FD委員会	
	研究倫理を学ぶー発表倫理を中心にー	山崎 茂明(愛知淑徳大学 教授)	令和6年2月5日	15	社会福祉学部 FD委員会	
健康栄養学部	テーマ1:本学の防災体制と事務局の取組み テーマ2:健康栄養学部の防災活動	テーマ1) 宮脇 広道(総務部長)、 塩田 敬之(財務施設課) テーマ2) 廣内 智子(健康栄養学部 講師)	令和5年11月27日	23	健康栄養学部 FD委員会主催	
	令和5年度医療センターとの合同災害訓練の 振り返り(救護所の活動について)	木下 真理(看護学部 教授)	令和5年12月18日	12	健康栄養学部 FD委員会主催	
	令和5年度 健康栄養フィールドワークの活動 報告	島田 郁子 (健康栄養学部 准教授) 廣内 智子 (健康栄養学部 講師)	令和6年2月15日	18	健康栄養学部 FD委員会主催	
地域教育研究セン	「清原の遺言」	清原 泰治 (地域教育研究センター 教授)	令和6年2月16日	4	地域教育研究 センター	
	地域学実習の省察と改善計画	秋谷 公博 (地域教育研究センター 准教授)	令和6年3月22日	4	地域教育研究 センター	

(3)全学人権研修会

部 署	内 容	講師・担当者	年月日	参加者数 (人)	主 催	共 催
全学	大学・研究機関におけるハラスメントの事例とその対応	株式会社フォーブレーション	令和5年11月6日～ 令和6年1月5日	99	高知県立大学 人権委員会	

(4)部局別人権研修会

部 署	内 容	講師・担当者	年 月 日	参加者数 (人)	主 催	共 催
文 化 学 部	学術研究分野における個人情報保護の規律 の考え方	菊池 直人(文化学部 准教授)	令和6年2月13日	24	人権委員会	学部FD委員会
	「労働事件からみる大学におけるハラスメン トー近時のハラスメントに関する裁判例の検討 をととして」	根岸 忠(文化学部 准教授)	令和6年2月19日	22	人権委員会	
看護学 研究科	「高知県立大学ハラスメントの防止等に関する 規程」および「高知県立大学ハラスメント防止 のためのガイドライン」について読みあわせ	人権委員会	令和5年5月17日	39	人権委員会	
	「みんなでNoハラスメントオンライン研修講座」	あかるい職場応援団(厚生労働省 委託事業)	令和5年2月7日～ 2月29日	38	人権委員会	
社 会 学 部	パワーハラスメント 今こそ被害根絶へ～パ ワーハラ防止法で義務付けられたこと～	株式会社 映学社	令和6年3月4日	21	人権委員会	
養 健 学 部	バワハラ研修	法務省等オンデマンド視聴	令和6年1月16日～ 2月13日	11	人権委員会	
地 域 教 育 研 究	「視覚障害の理解と支援」	石山 貴章 (地域教育研究センター 教授)	令和6年1月14日	4	人権委員会	
事 務 局	令和5年度事務職員向け人権研修会	株式会社フォーブレーション	令和5年10月5日～ 12月16日	55	高知県立大学 人権委員会	

(5)学外研修

部 署	内 容	期 間	参加者数 (人)	主 催
学 文 部 化	高知大学FD研修 講義に小グループ・ペア学習を取り入れた授 業デザイン-考え方と進め方-	令和5年6月9日	1	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
学 看 部 護	令和5年度公立大学の研究活動促進に資す るための勉強会	令和5年6月9日	11	一般社団法人公立大学協会
社 会 学 部	令和5年度公立大学の研究活動促進に資す るための勉強会	令和5年6月9日	3	一般社団法人公立大学協会
養 健 学 部	令和5年度公立大学の研究活動促進に資す るための勉強会	令和5年6月9日	4	一般社団法人公立大学協会
地 域 教 育 研 究	授業について考えるランチセミナー テーマ:合理的配慮の必要な学生に対する授 業実践	令和5年4月13日・20日	1	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
事 務 局	初任者研修①	令和5年4月1日	2	高知県公立大学法人
	初任者研修②	令和5年4月7日	2	高知県公立大学法人
	初任者研修③	令和5年4月10日	2	高知県公立大学法人
	新規採用職員研修(基礎①)	令和5年4月18日	2	高知県
	新規採用職員研修(基礎①) (受講方法:オンライン)	令和5年4月20日～5月19日	2	高知県
	公立大学に関する基礎研修 (受講方法:オンライン)	令和5年4月20日	4	一般社団法人公立大学協会

部 署	内 容	期 間	参加者数 (人)	主 催
事 務 局	新規採用職員研修(基礎②)	令和5年5月31日	2	高知県
	新規採用職員研修(基礎②) (受講方法:オンライン)	令和5年5月15日～6月15日	2	高知県
	新規採用職員研修(基礎③)	令和5年6月22日・23日	2	高知県
	新規採用職員研修(現場の声から学ぶ県民本位)	令和5年11月27日	2	高知県
	令和5年度公立大学職員セミナー	令和5年8月28日・29日	2	一般社団法人公立大学協会
	令和5年度公立大学法人会計セミナー (受講方法:オンライン)	令和5年9月11日～1月15日	1	一般社団法人公立大学協会
	次世代リーダー養成ゼミナール 第1回	令和5年5月24日・25日	2	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	次世代リーダー養成ゼミナール 第2回	令和5年7月13日・14日	2	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	次世代リーダー養成ゼミナール 第3回	令和5年10月19日・20日	2	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	次世代リーダー養成ゼミナール 第4回	令和5年11月29日・30日	2	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	次世代リーダー養成ゼミナール 第5回	令和6年1月18日・19日	2	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム (新任職員)	令和5年5月10日・11日	2	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	若手・中堅職員のための判断力・決断力養成 講座	令和5年9月25日	3	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	大学人・社会人としての基礎力養成プログラム (レベルⅡ)	令和5年11月29日・30日	2	四国地区教職員 能力開発ネットワーク
	避難所運営研修(第1回)	令和5年5月31日(池キャンパス) 令和5年6月1日(永国寺キャンパス)	49	高知県立大学
	避難所運営研修(第2回)	令和5年7月24日	49	高知県立大学
	避難所運営研修(第3回)	令和5年8月22日・23日	45	高知県立大学
	避難所運営研修(第4回)	令和5年10月31日	32	高知県立大学
	MOS研修	令和5年7月28日～10月26日	13	高知県立大学